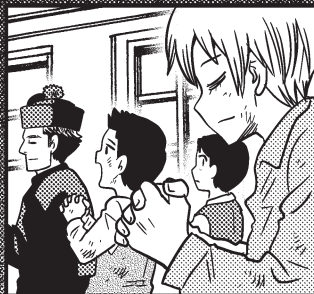
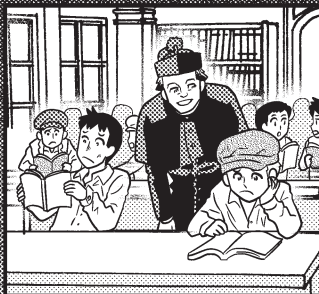
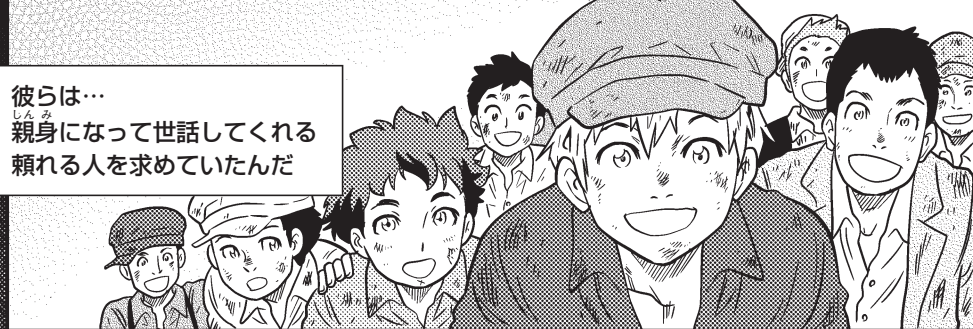
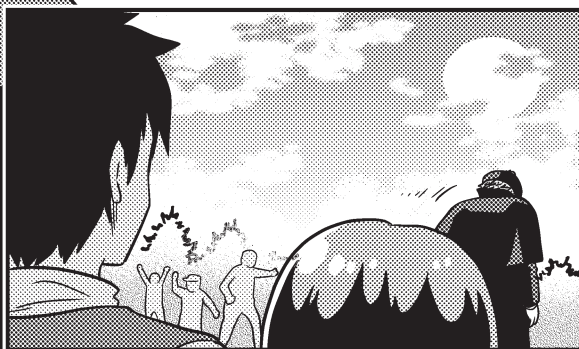
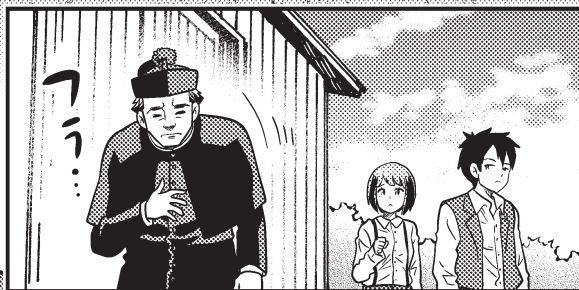


彼らは…
親身しんみになって世話してくれる
頼れる人を求めていたんだ



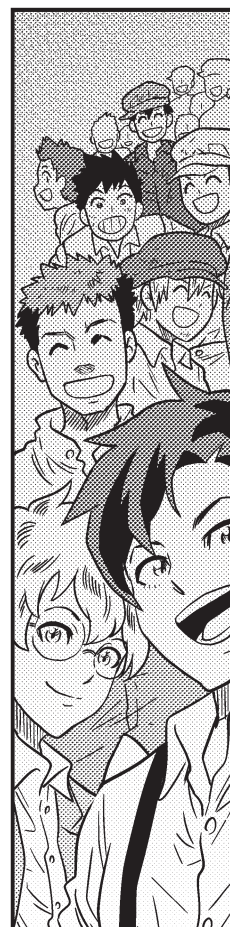
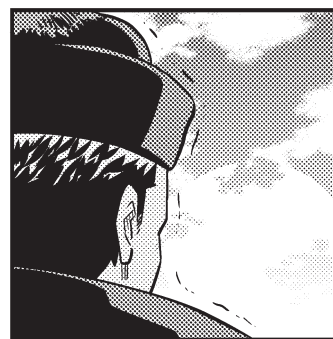
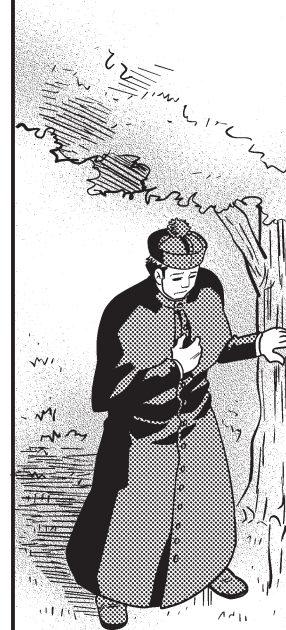
そんな若者たちを…
再び路上に放り出すことはできない…！

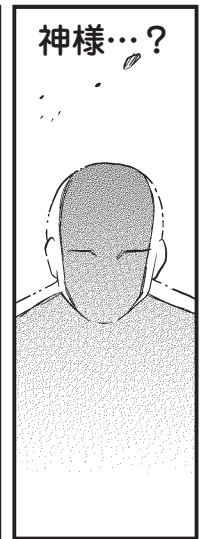
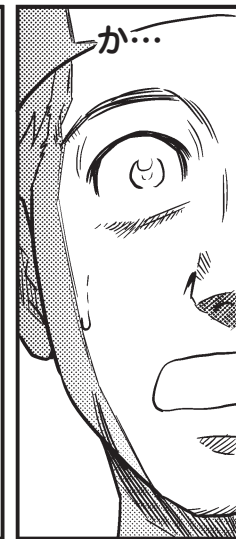
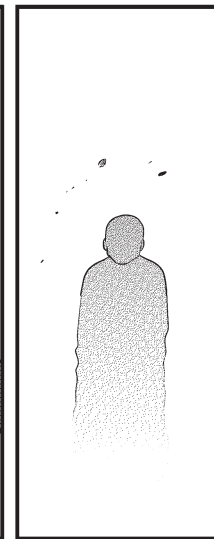
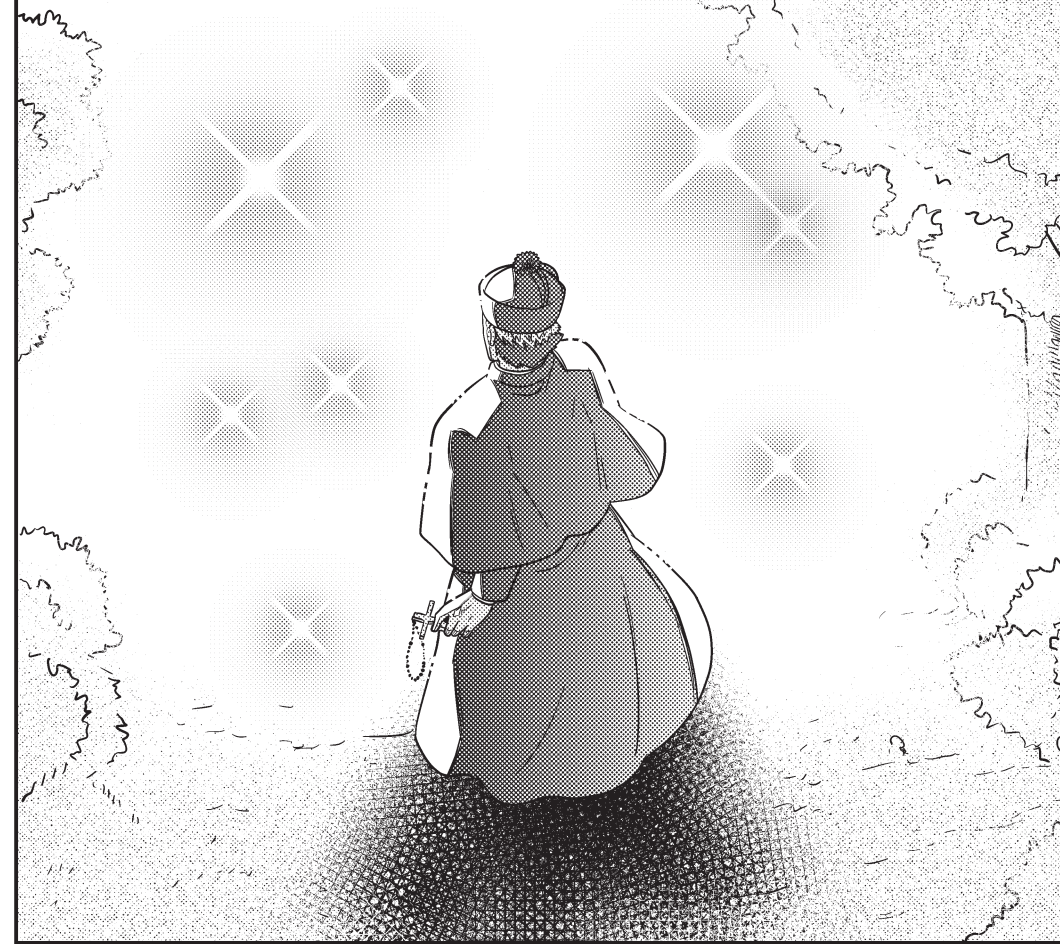
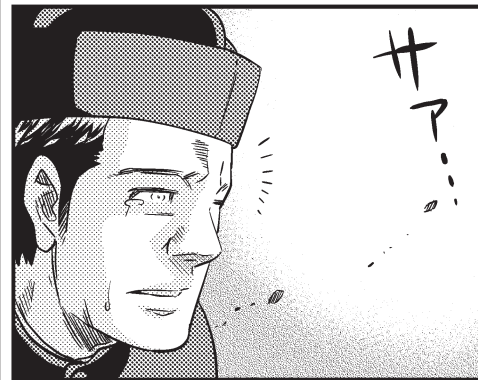
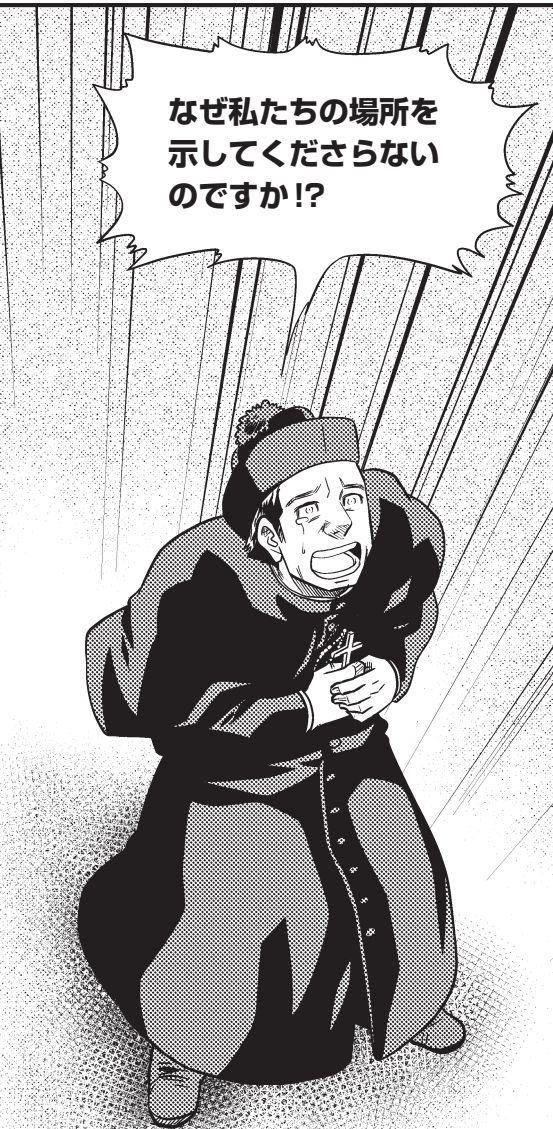
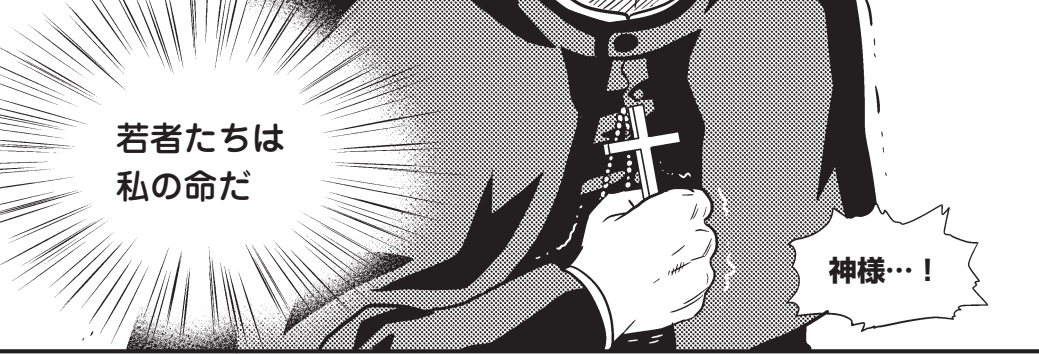


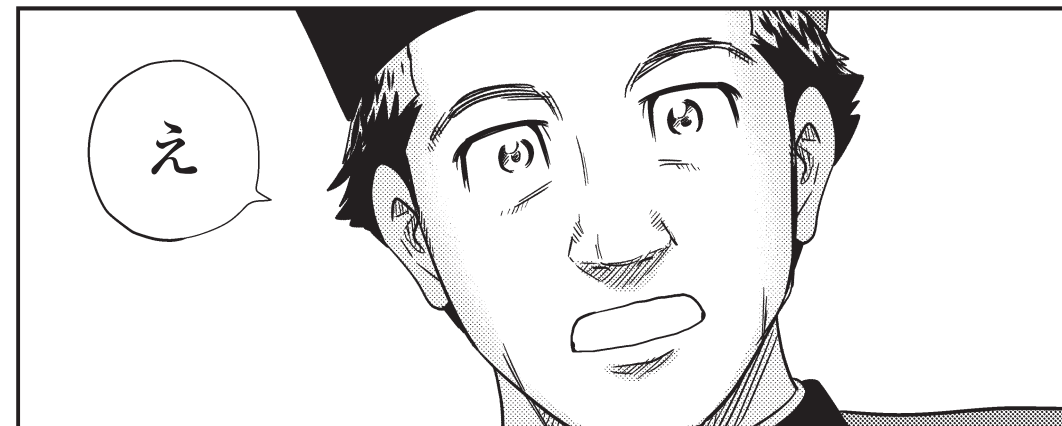
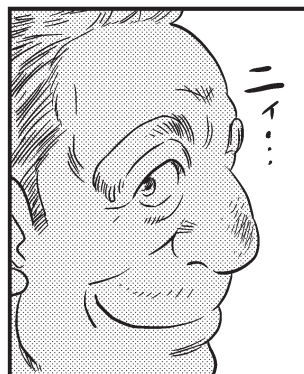
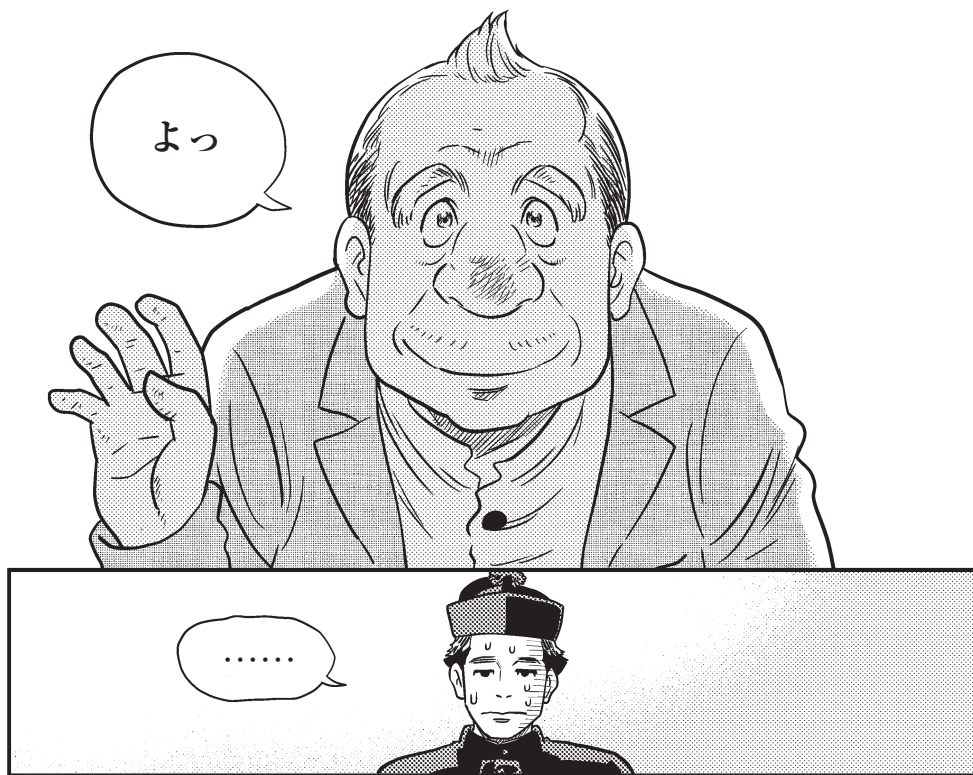
日が沈しずんだら
この牧草地も
おしまいだ…

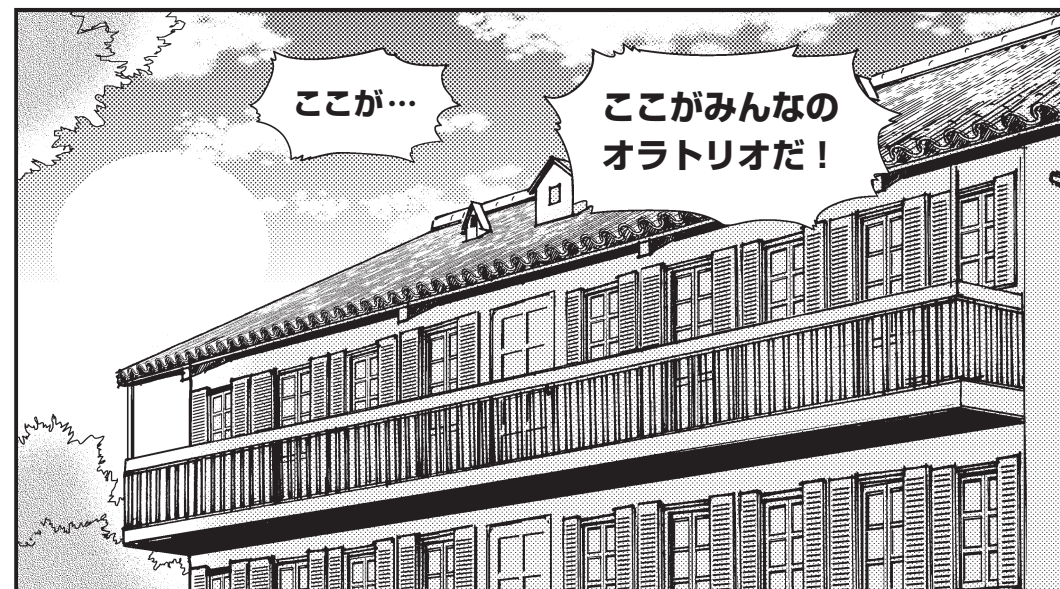
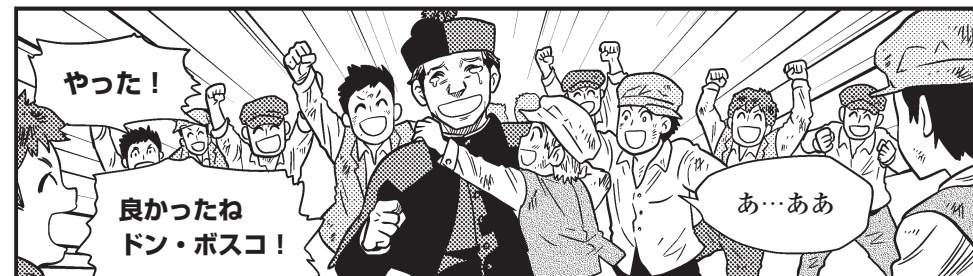
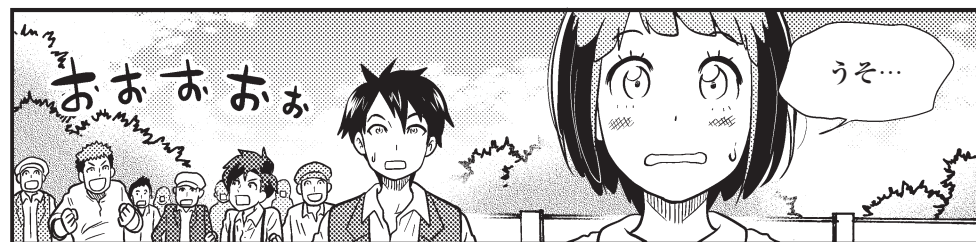
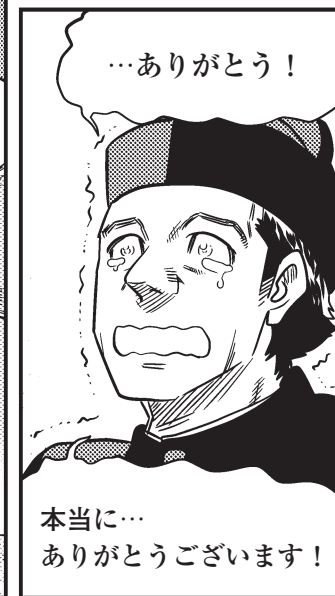
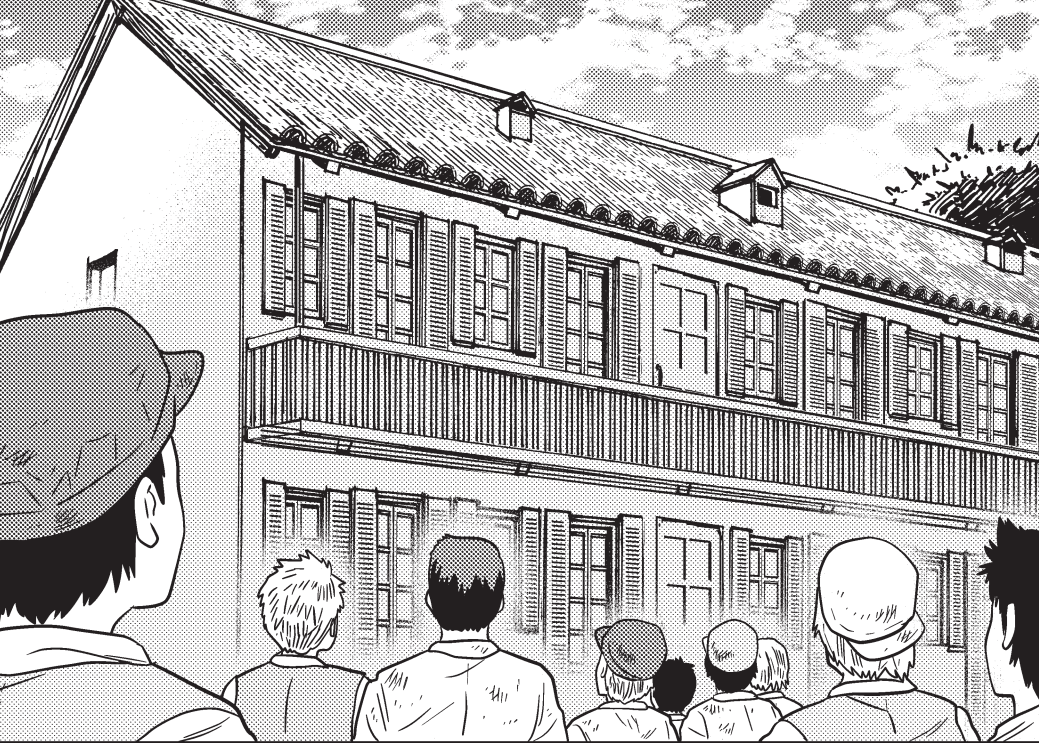


そうだね…
なんでもそう
うまくいくわけない…か









当時の子どもたちって どんな問題を^{かか}抱えていたの？



オラトリオでいろんな子どもたちと会おうけど、彼らはどんな問題を抱えていたの？



当時のイタリアでは貧富の差が激しくて、なかなか学校に行けないとか、住む家がないような若者が大勢いたんだ。



やっぱり…現代とは違うな。



そうかな、今と同じところもあるよ。



どんなところが？



世界にはまだ同じ問題を抱えているところがあるし、日本でも最近「格差社会」ということが問題になっているよね。



そうかもな…



ねえねえ、リフージョってどんなところなの？



リフージョはバローロ侯爵夫人が始めた、女性のための更生^{こうせい}施設だよ。



更生施設って？



よくない道を離れて、きちんと生活するために共同生活をするところだよ。



よくない道って…やばい(汗)でも、バローロ侯爵夫人でどんだけお金持ちなの？



それはいっぱいだろうねえ(笑)バローロ侯爵夫人は貴族で、特権のある称号^{しょうごう}を持ち、社会の中で上の階級^{こうけい}の人なんだ。そして社会貢献活動^{けんめい}に一生懸命な慈善家^{じぜんか}だよ。



慈善家か…だからリフージョね。で、どこにあるの？



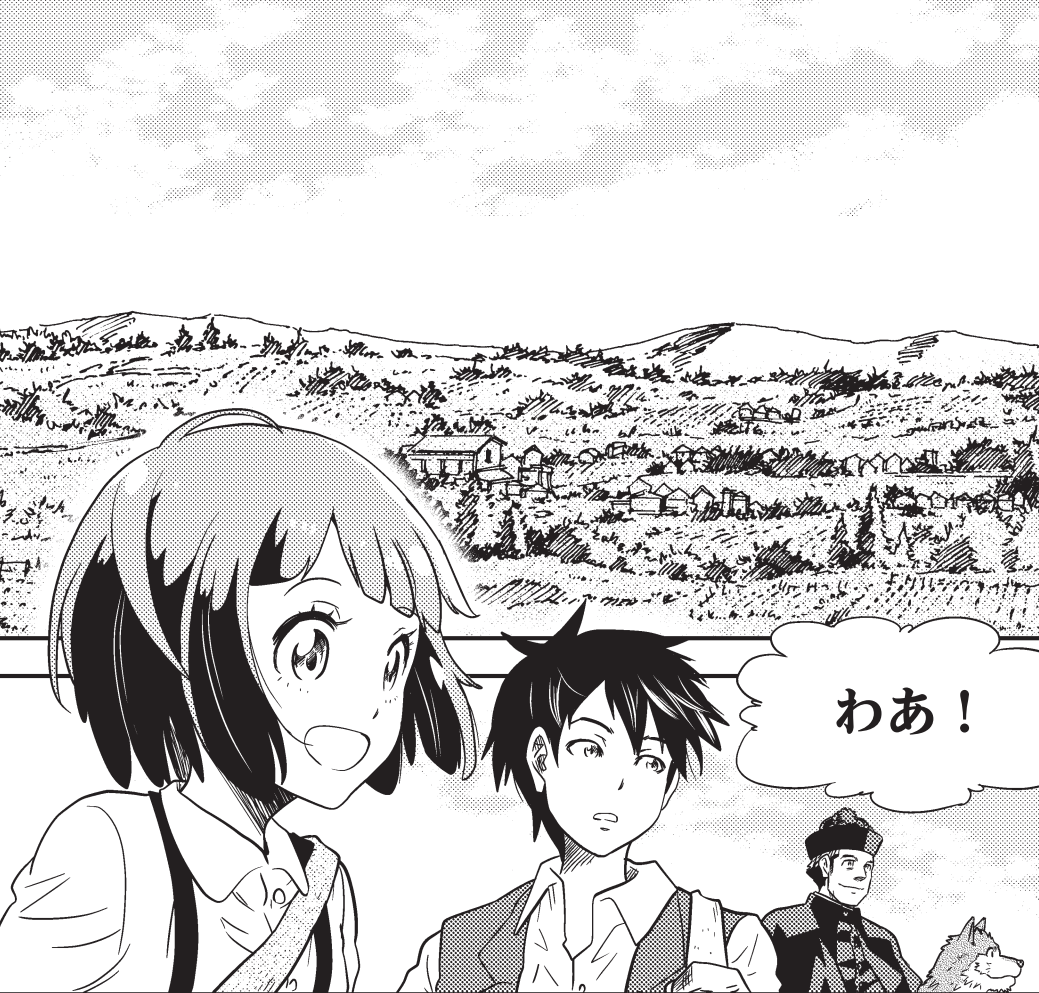
トリノのドン・ボスコがいたピナルディの家から数百メートル離れたところ。現代でも当時の建物が残っているよ。



えー、今でも残っているんだー。

chapter 4

故郷



わあ！

あそこが
ドン・ボスコの
生まれたところ？

そうだよ
とても小さい村
だけどね



さあ
私の家まで
もう少しだ

がんばろう

コホ
コホ

クニ



タッ

新しい
オラトリオにも慣れ
しばらくたったころ

まだ体調の良くない
ドン・ボスコは

みんなのすすめで
しばらく故郷のベッキ村で
静養することに…



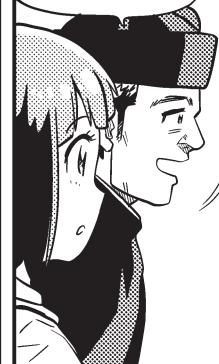
ゴホ
ゴホ

私たちもドン・ボスコの
お世話も兼ねて
連れてきてもらいました

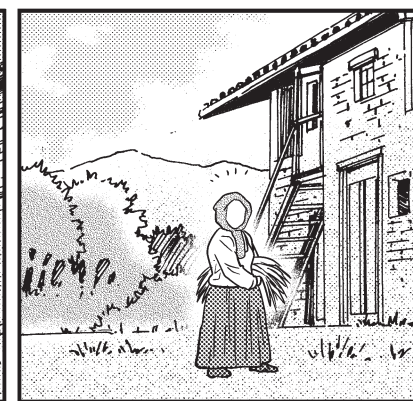
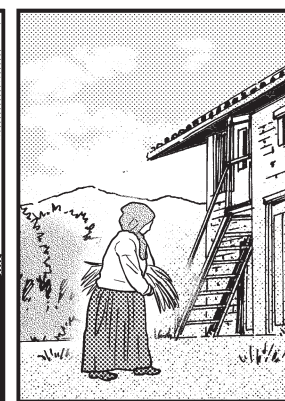


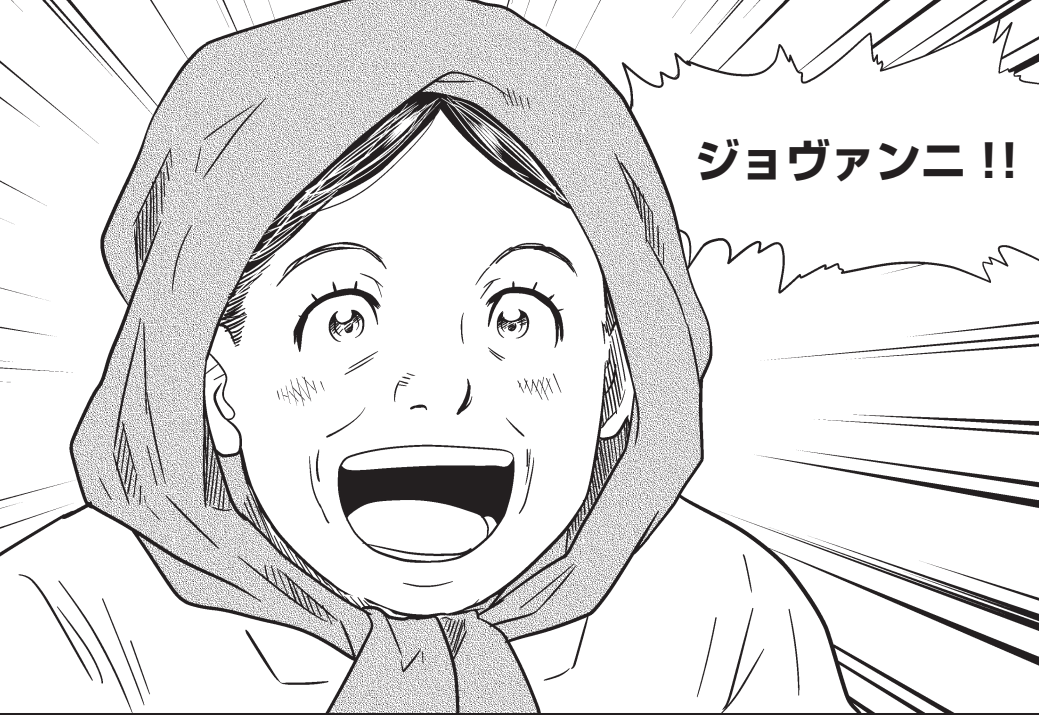
い
い

ほら
あそこだよ



あれが私の家…





ジョヴァンニ!!



マンマ
母さん!!



会いたかった!

私もよ
ジョヴァンニ!



しょうかい
紹介しよう
私の母親
マンマ・マルゲリータだ

あうかうイイ
おじいちゃん
と
おばちゃん



ドン・ボスコの
...お母さん



はははは!

ジョヴァンニも
だいたい神父としての
貫禄かんろくがついてきたじゃないか

いやあ
まだまだだよ
兄さん

長男 アントニオ



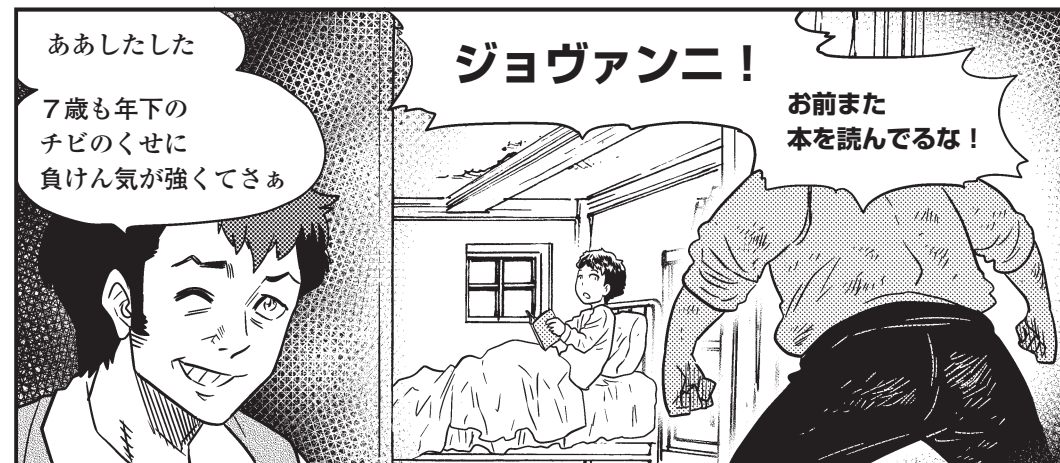
こいつは
本当に昔から
畑仕事もしないで
本ばかり読んでてな

俺をさんざん
困らせたんだ

懐かしいな
兄さんとジョヴァンニの
ケンカ

次男 ジュゼッペ

よくケンカ
してたんですか?

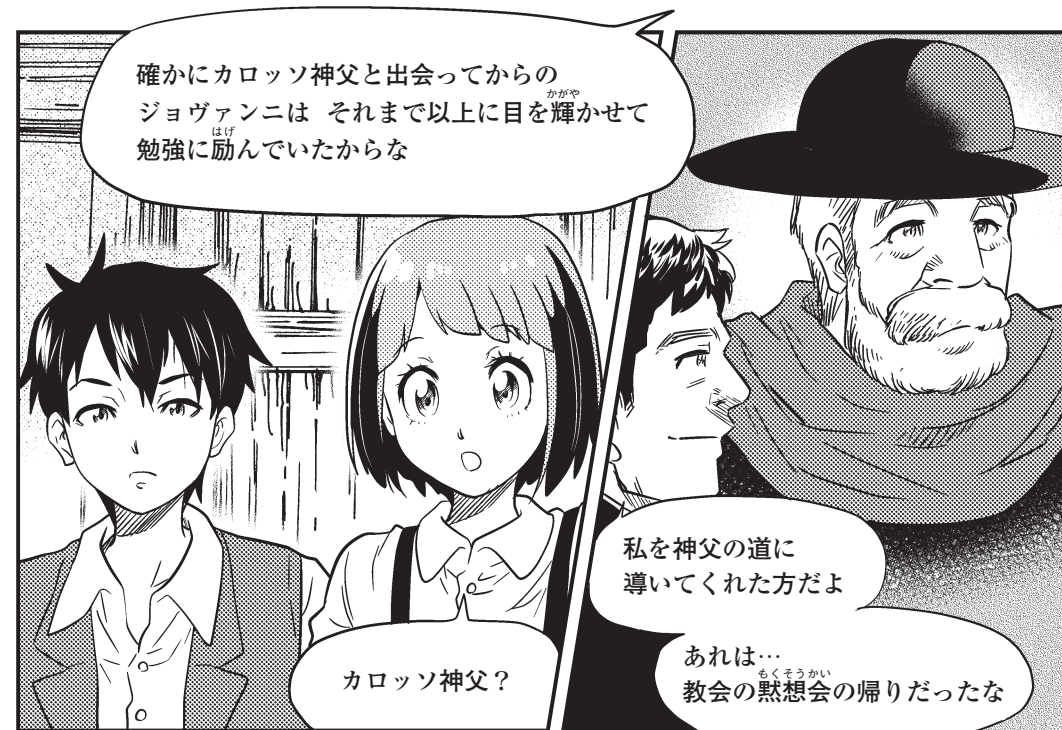
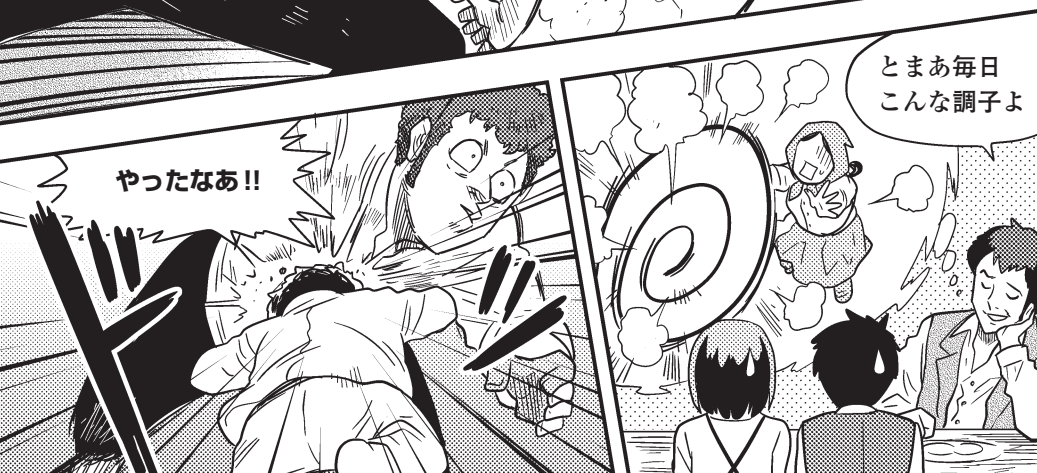
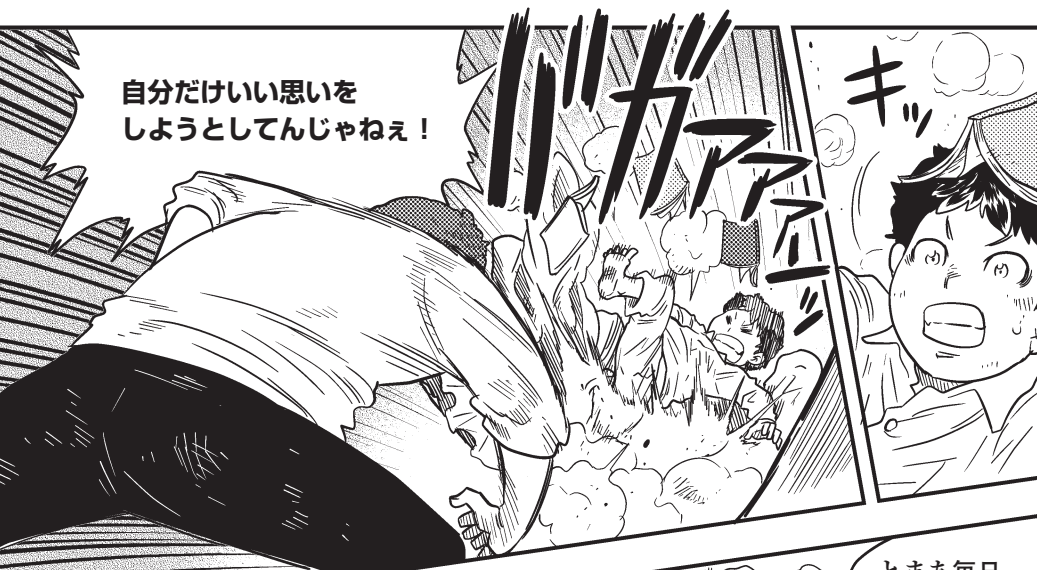


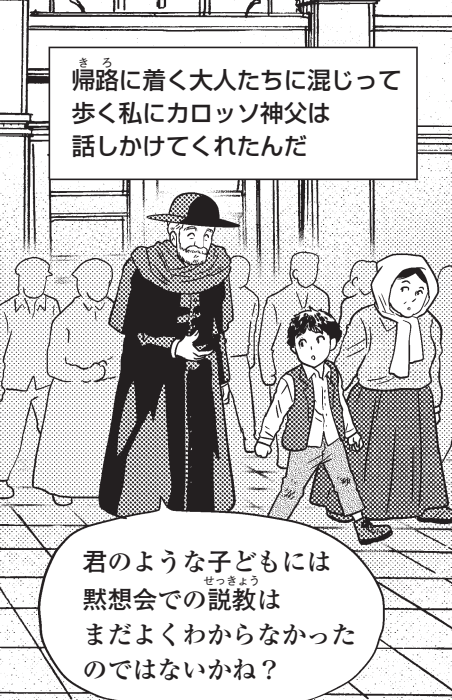
ああしたした

7歳も年下の
チビのくせに
負けん気が強くてさあ

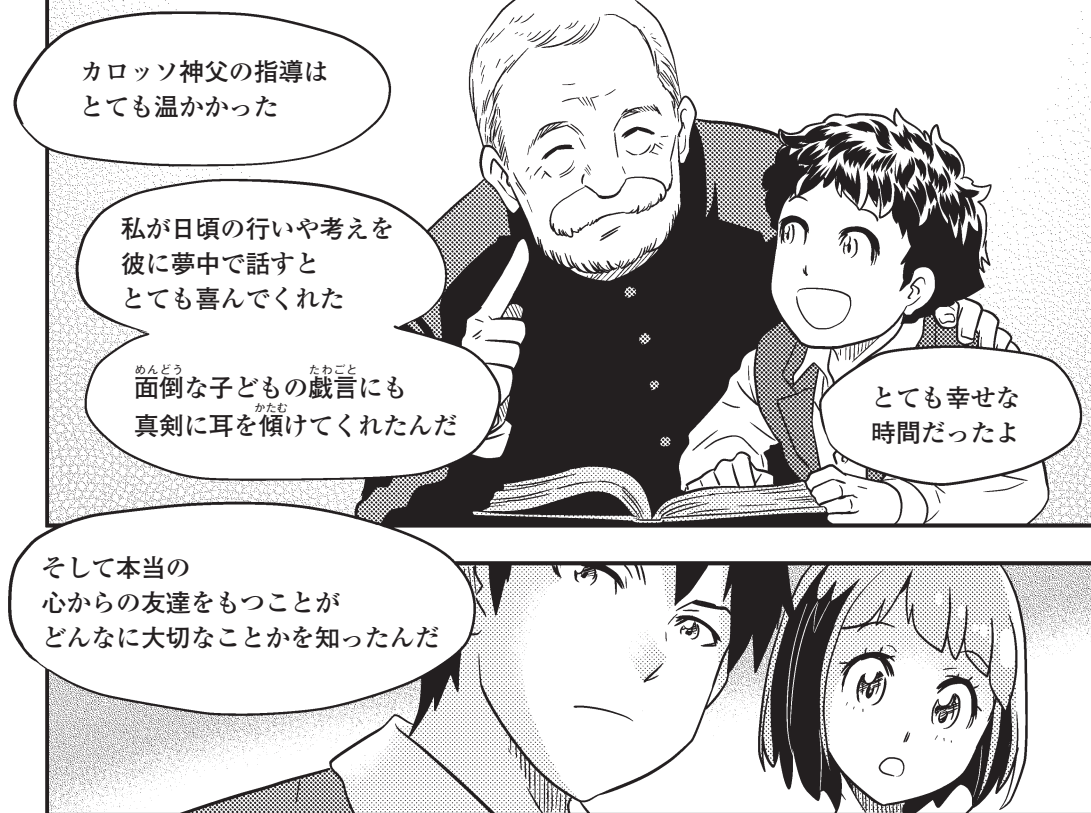
ジョヴァンニ!

お前また
本を読んでるな!





※回心＝神の道へ心を向けること



そして…カロッソ神父は
神に命を返されたんだ

私は今でも毎日
彼のために祈っているよ

ハア…

…そんなに
大切に思える人

あたしには
いないなあ

いるさ

まわ
みわた
周りを見渡して
みるといい

マナが気づこうと思えば
大切な人が
大勢いるはずさ

俺を
見るなよ…

キレ

違うなあ

おい

それからしばらくして――

母さん
だいぶ体調も戻ってきたし
あと数日したら
オラトリオに戻ろうと思います

子どもたちを放^{ほう}つては
おけないしね…

そうかい…

お前にとって
子どもたちはとっても
大切なんだね

それで…

じつはお願いが
あるんです

オラトリオの
子どもたちはとても
いい子ばかりです

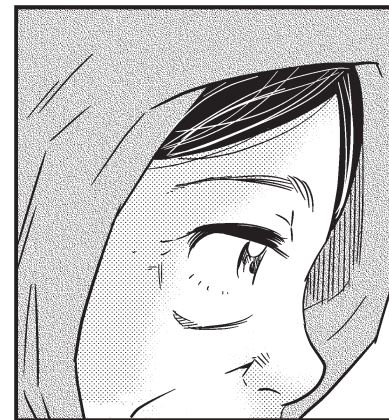
やんちゃだけど
みんな純粋^{じゅんすい}で

いつも明るく
過ごしています

でも男の私だけではどうにも
ならないこともあるんです

母さん

子どもたちのお母さんにな
ってもらえませんか



数日後——

マンマ・マルゲリータは私たちと一緒にオラトリオのあるトリノへ行ってくれることになりました

ドン・ボスコはウキウキです

母さん
足元 気をつけて

ううう～
なんか出そう

お…お前…
高校生にもなって
幽霊でも出ると
思ってるの？

そ…そんなことないけど
例えば盗賊とかさ～

か…金を出せ!!

ってほら
出たー!!



刑期は無事に終えたと
聞いていたが
なぜこんなまねを…?

あんたには
関係ねえ

さっさと警察に
突き出せよ

カルロ…

いったい
何があったの?

話して
くれる?

俺一人が必死に
変わっても

世の中が俺を見る目は
変わってくれねえ
ってことだよ

刑務所から出た俺は
仕事も見つけ
まともな人生を送ろうと
がんばったんだ…

ドン・ボスコ…
少しでもあんたみたいな
心を持ちたくてな

でも周りのやつらは
刑務所帰りの俺を
^{あつか}
まともに扱ってくれなかった

^{けいべつ} 軽蔑、^{かげぐち} 差別、陰口…
言葉や態度の暴力で
俺は苦しめられた

ついに耐えられなく
なって俺は仕事も辞め
街を離れた

人間なんて
刑務所に入っていなくても
善人ぶった悪党ばかりだと
悟ったよ

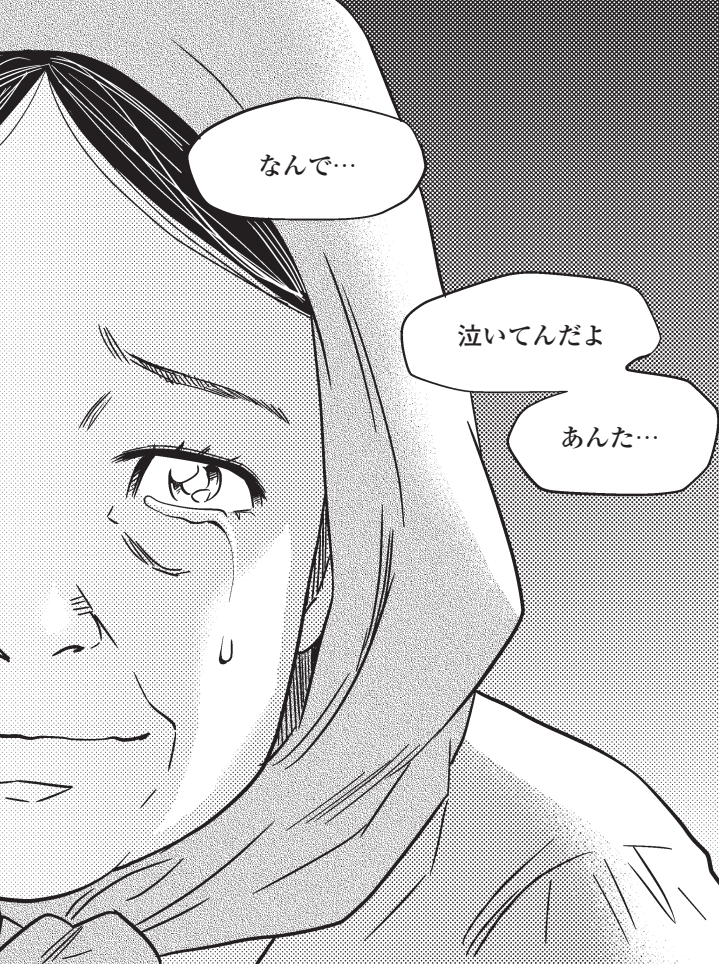
もう……
全部どうでもいい

…で気づいたら
この有様さ

…そう

苦しかったんだね

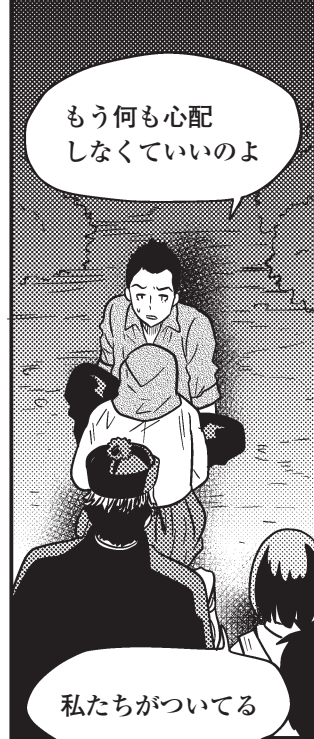
…おい…



なんで…

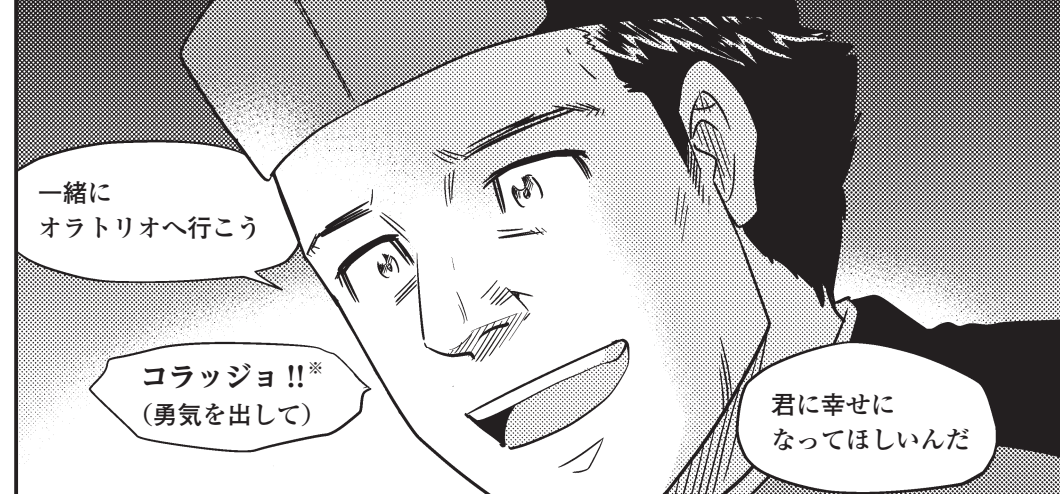
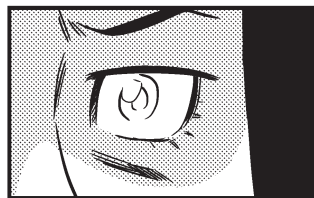
泣いてんだよ

あんた…



もう何も心配
なくていいのよ

私たちがついてる

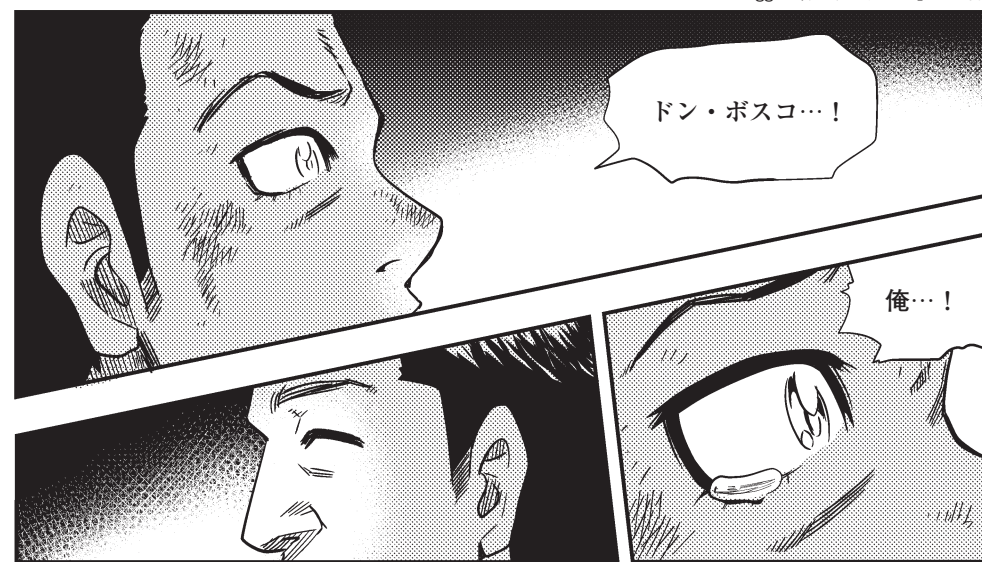


一緒に
オラトリオへ行こう

コラッジョ!!*
(勇気を出して)

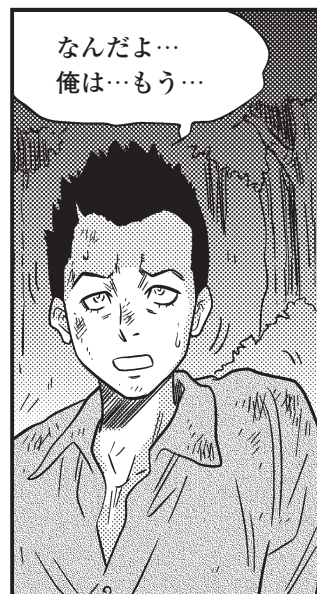
君に幸せに
なってほしいんだ

※イタリア語で coraggio!!「勇気を出して!!」の意味。

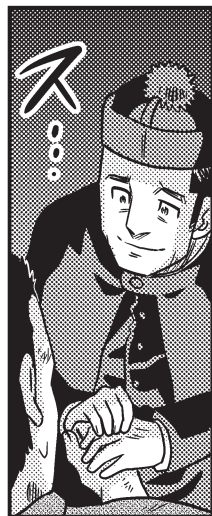


ドン・ボスコ…!

俺…!

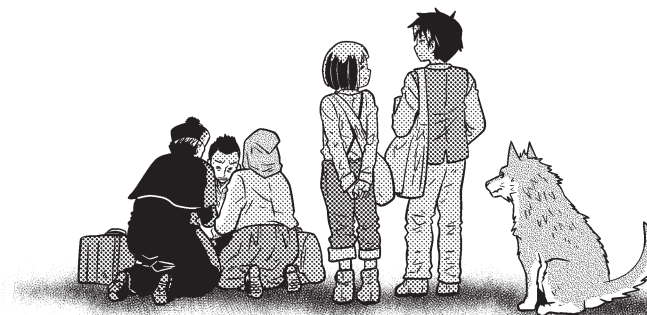


なんだよ…
俺は…もう…



…カルロ
君はいつか私の信頼に
応えてくれたね

もちろん今も
君を信じている



学校に通えないって、どうして？



ドン・ボスコの家族のことを教えて！



ドン・ボスコの家族はお母さん、おばあちゃん、お兄さん2人。お父さんは彼が1歳半の時に亡くなっちゃったんだ。



ドン・ボスコ、かわいそう…（泣）小さい頃はどんな子どもだったの？



明るく、元気いっぱいな子どもだった。



私も同じ～



そして勉強が好きで頭がいい。



私と違う…（泣）



ちょっと生意気な部分もあったけど、正義感が強かった。だから、ケンカっぱやいところもあったみたいだよ。



へえ、ちょっと意外だな。学校へは？



お父さんがいなくて働き手が必要だという上のお兄さんの強い考えがあったから、基本的には学校へは行けなかったんだ。



たいへんだったんだね。



でも読み書きはできたんだろ？



9歳の頃に数か月だけ学校に通うことができたからね。



数か月間だけで？ 努力家なんだね、ドン・ボスコ。



マンガに出てくるカロッソ神父って誰？



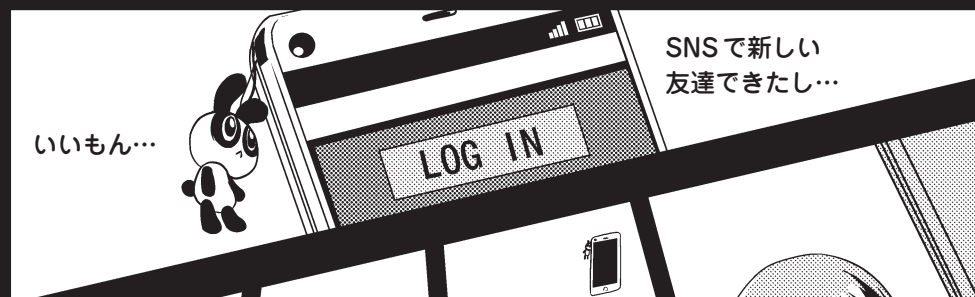
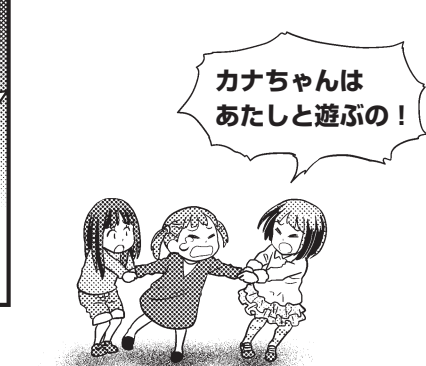
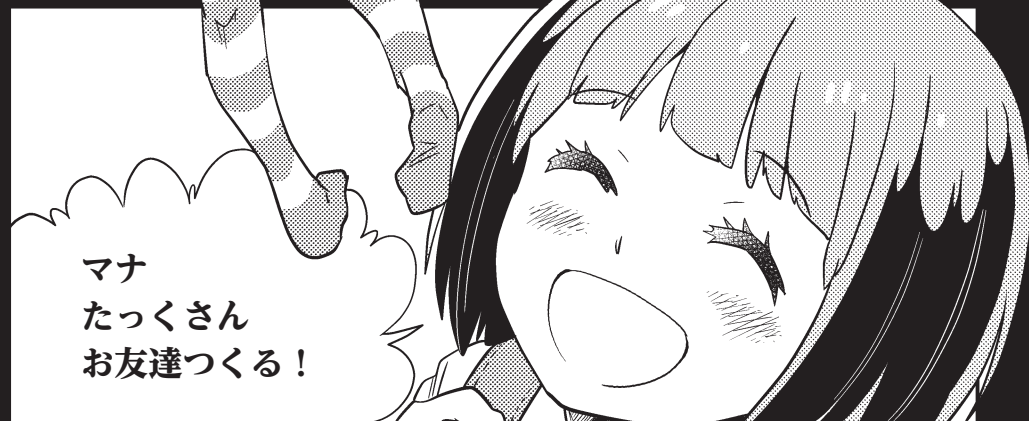
ドン・ボスコが14歳の頃に出会った、家の近くの教会の神父さ。ドン・ボスコにとってお父さんのような存在となっていて、約1年と短いけれど、とても濃い時間を一緒に過ごしたんだよ。



ドン・ボスコにとって大切な人なんだね。

chapter 5

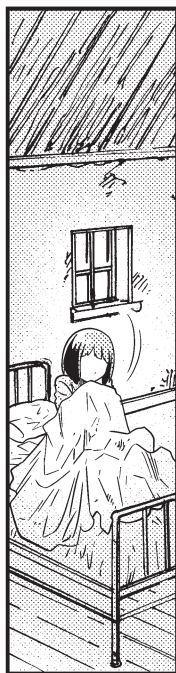
勇気





だれか…!

んんんん



はあ…



ドン・ボスコが
オラトリオに戻ってきて
しばらく経ちました

よーし
今度は私を
捕まえられるかな?

行くよ
ドン・ボスコ!



マンマ・マルゲリータは
オラトリオにすっかりなじみ
今ではみんなから
マンマ(お母さん)と
呼ばれています



カルロも…
少しずつ友達ができて

経験を活かして
ドン・ボスコが書いたものを
印刷する仕事をしています



そして
私たちは…

あ——！

ちょっと
そんなにあげるなんて
言ってないでしょ！

あい か
相変わらず
オラトリオの雰囲気
なじみきれず

二人ぼっちのままです

なんだよ
あげるって言ったの
お前だろ

もう
昼ごはん
足りなさそうだったから
ちょっと優しさ
見せたらこれだもん

こんなに
食べられちゃった

そんなに
執着するなよ

あーあ
やっぱめんどくさい

…
あたしが？

全部だよ

人間関係全部

だから当然
お前も含まれる

…やっぱり
こども…

だよね…

…基本はみんな
いいやつらだけどな

俺みたいに自分から
世の中を避けてるやつにも
気遣って話しかけてくるし
優しくしてくれる

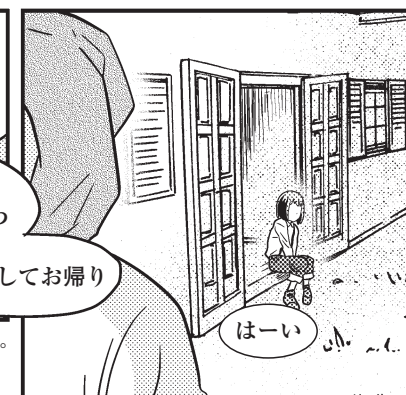
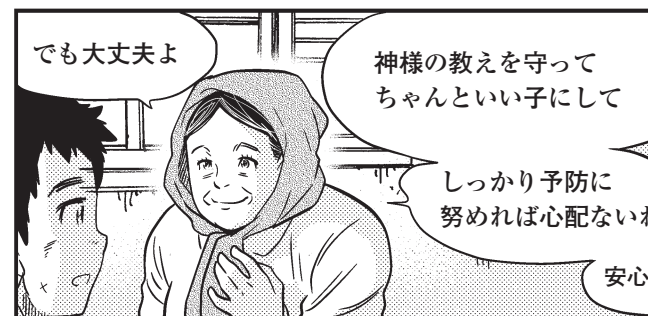
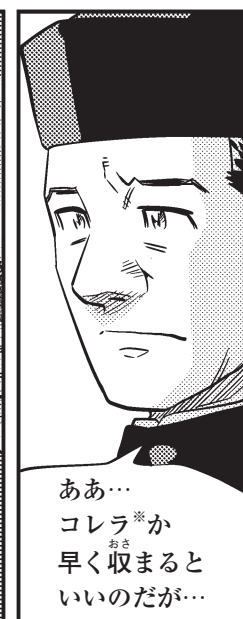
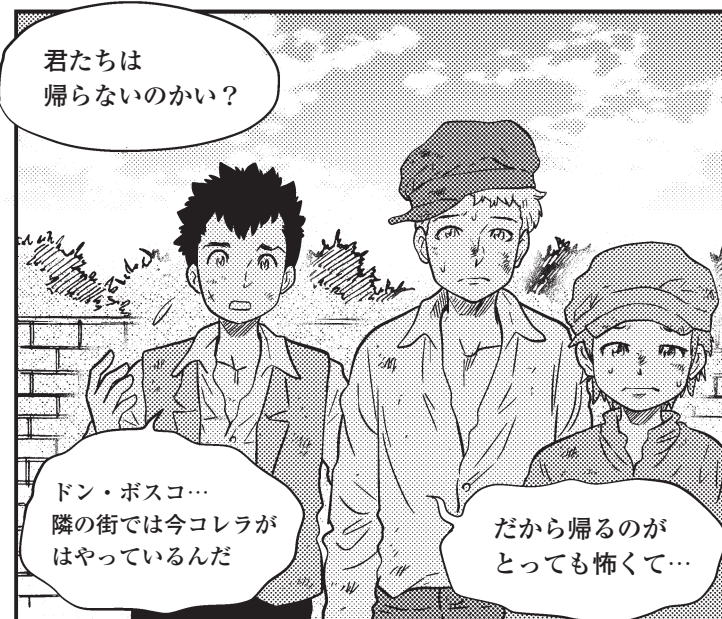
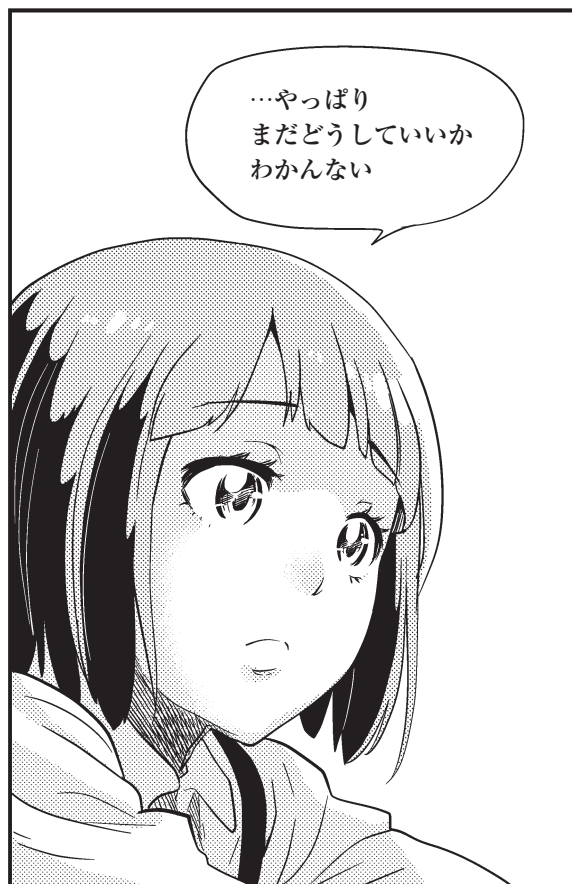
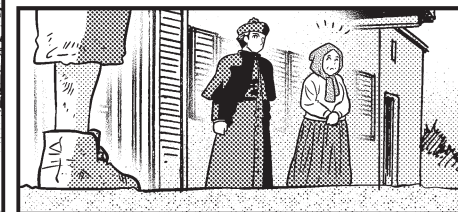
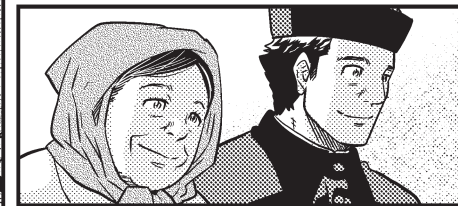
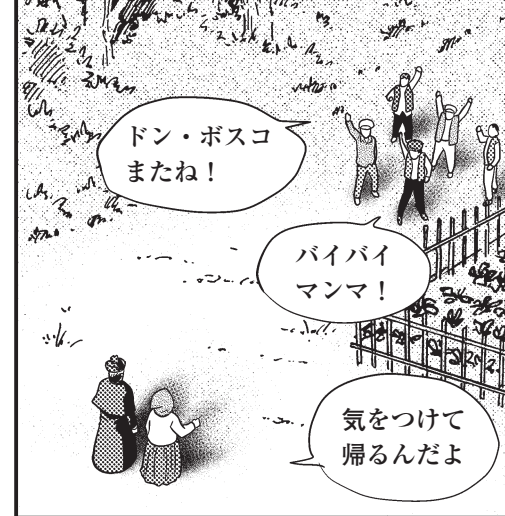
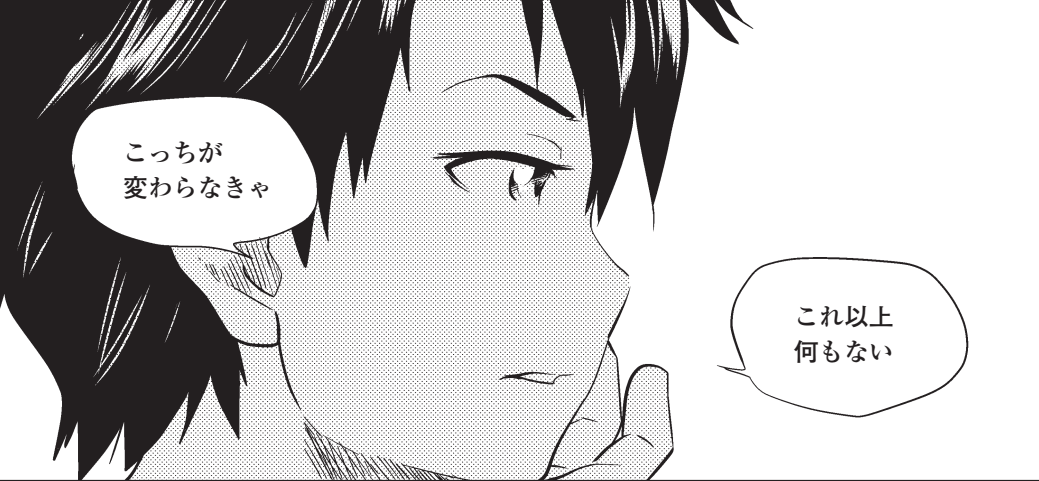
なんていうか…それが
わざとらしくないんだよ

そこには
偽善も下心もなく
純粹さだけを感じる

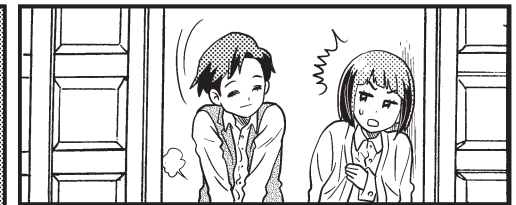
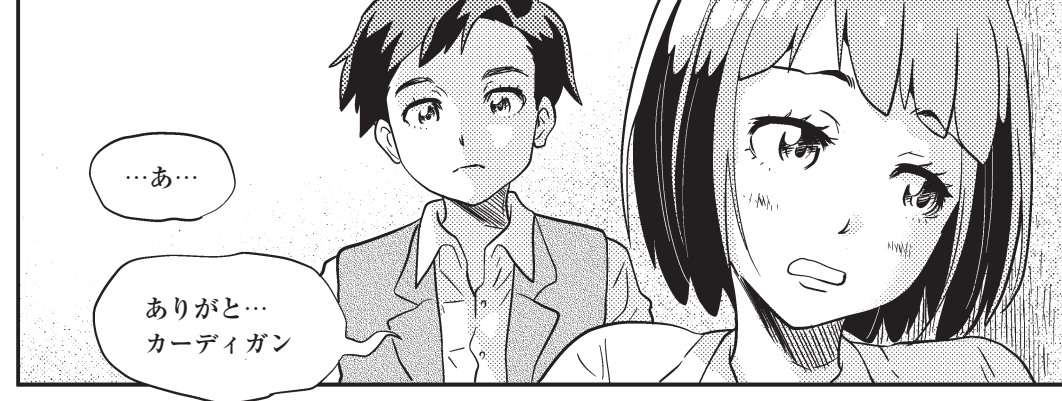
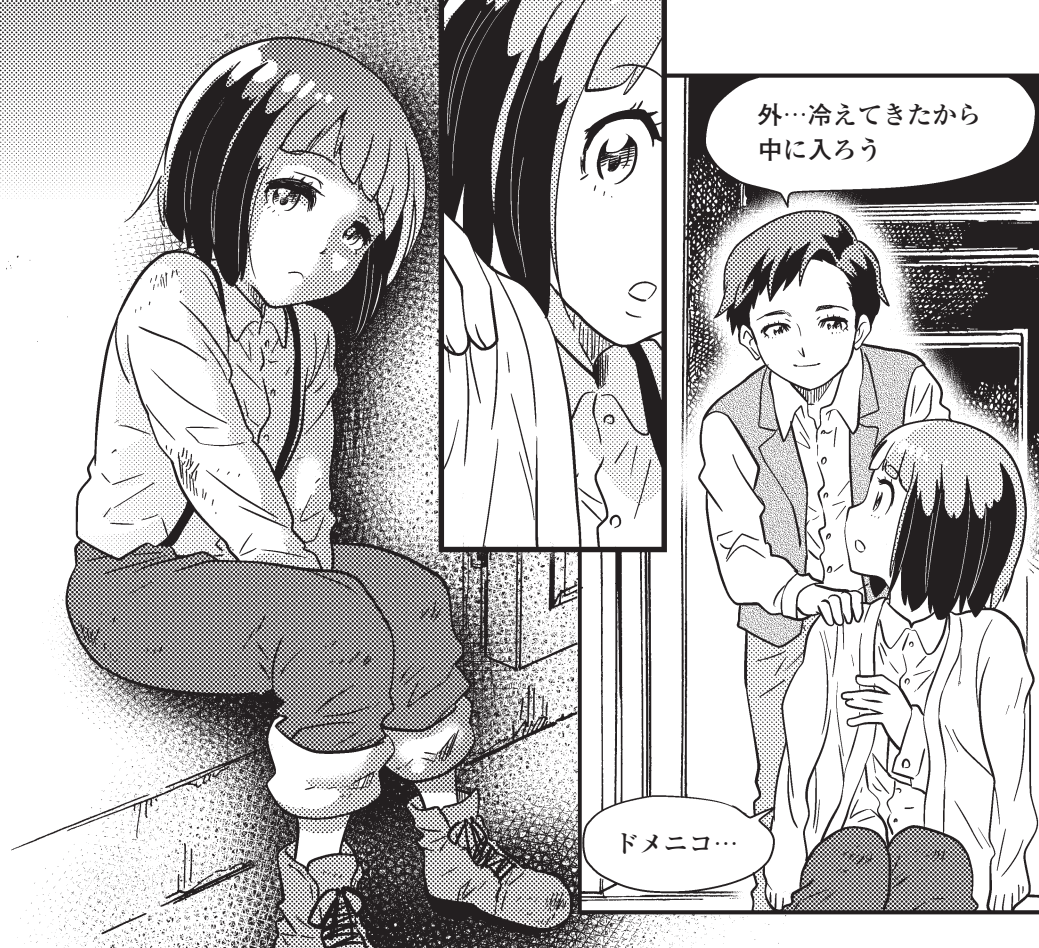
俺たちとはきっと
心の作りが違うんだ

俺たち？

やつらの心を
受け入れられれば
こんなに
めんどくさがらなくても
いいんだけどな

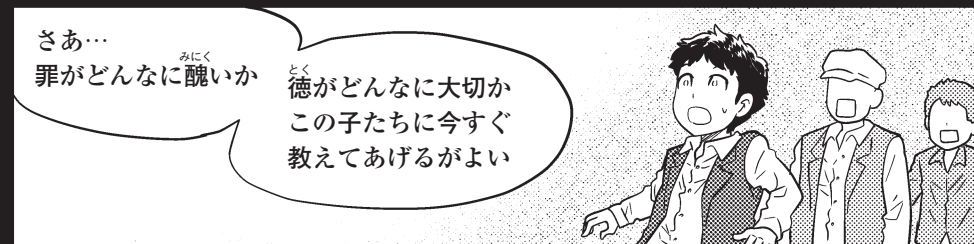
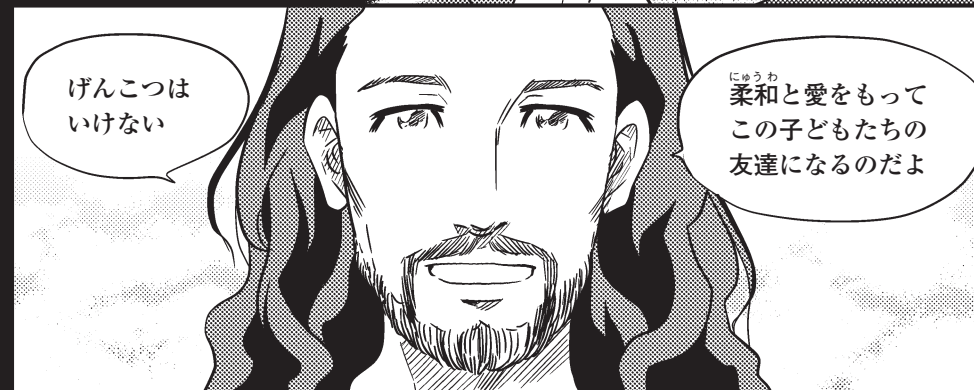
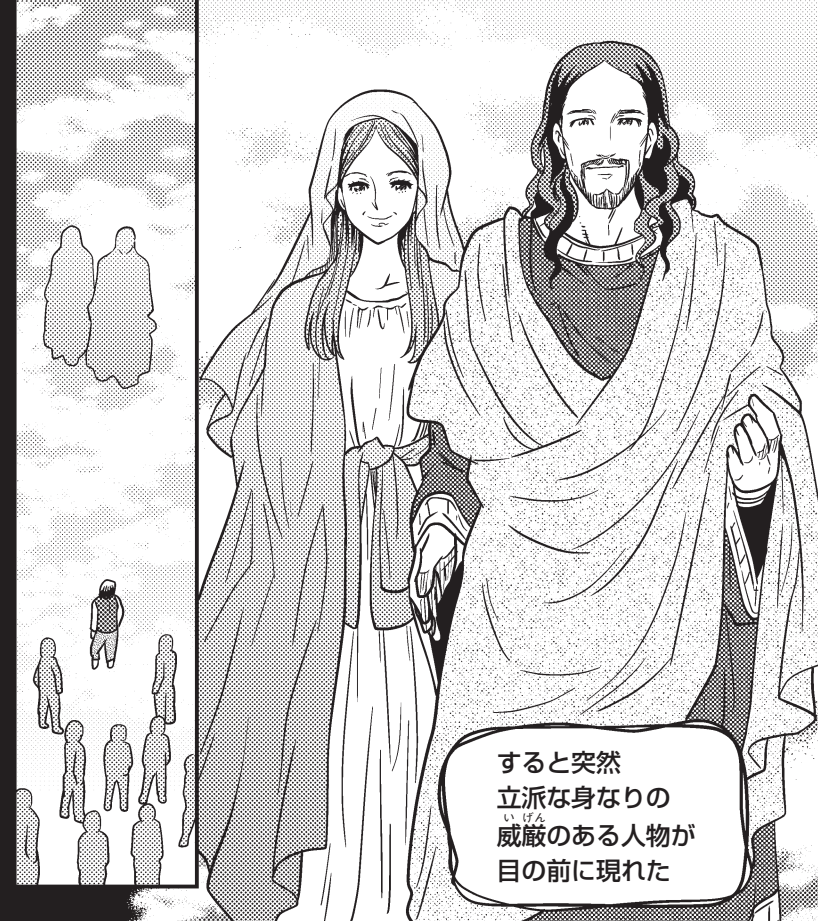
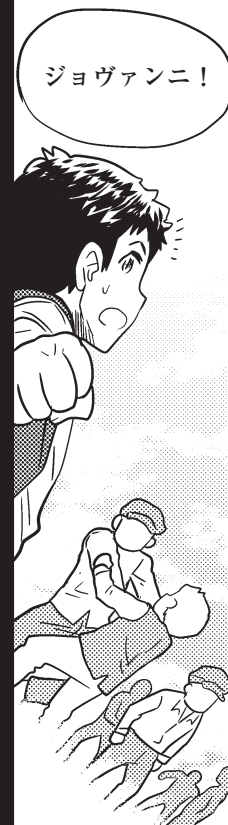
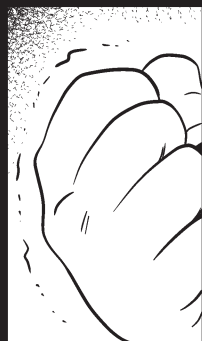


※コレラ菌による急性胃腸炎。19世紀には特效薬がなく、世界的に大流行が度々起こった。





まだジョヴァンニと
呼ばれていた少年の頃
夢を見たらいいんだ

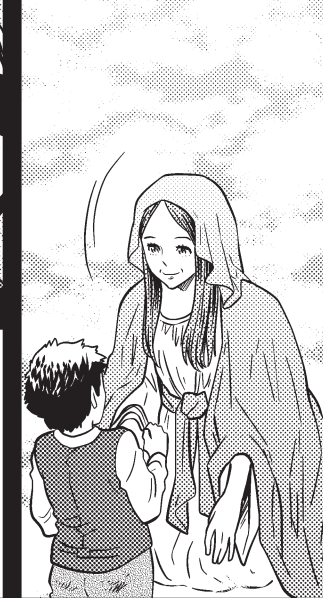




ぼ…僕が…？

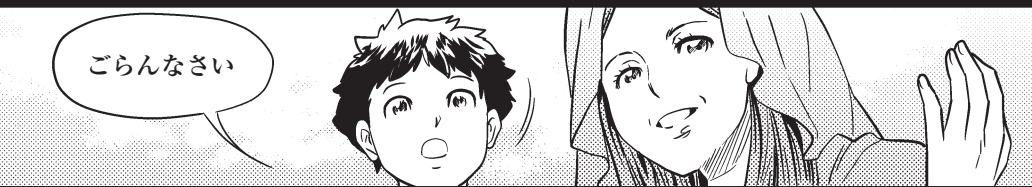
僕がこの子たちに
教える？

そんな
できそうもないことを
僕に言うなんて…



できそうもないと思うからこそ
従順によって…
知識を身に付けることによって…
できるようにになればよい

大丈夫
私が導いてあげよう



ごらんなさい



見ると
それまでそこにいた
子どもたちは消え

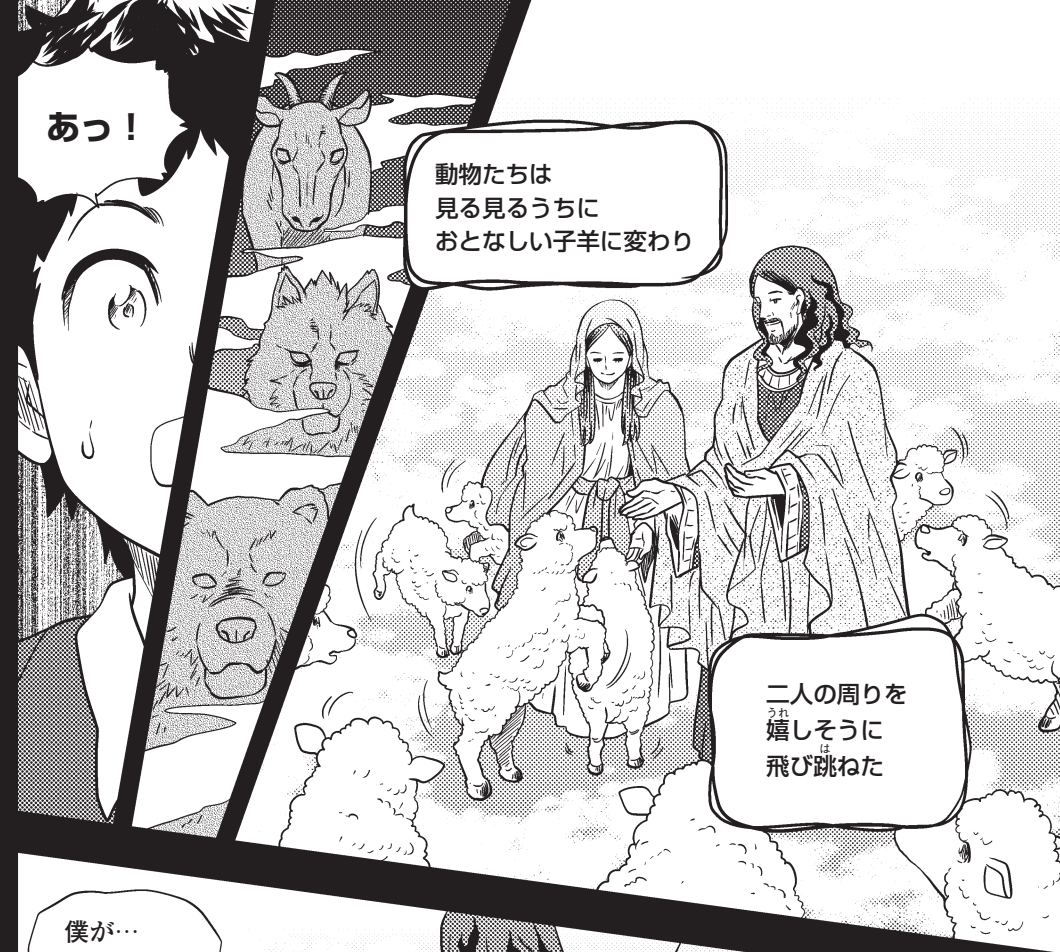
どう^{もう}猛な動物たちが
騒いでいた



これがあなたの持ち場です
あなたの働くべきところです

謙遜で、強く、たくましい人にな
りなさい

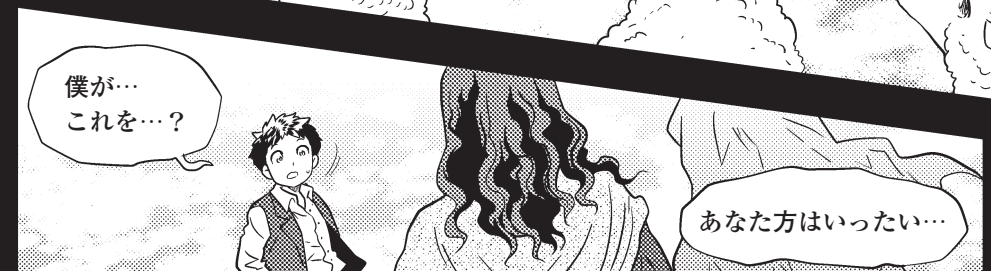
そしてこれから起こることを
私の子どもたちのために
してあげてほしいのです



あっ！

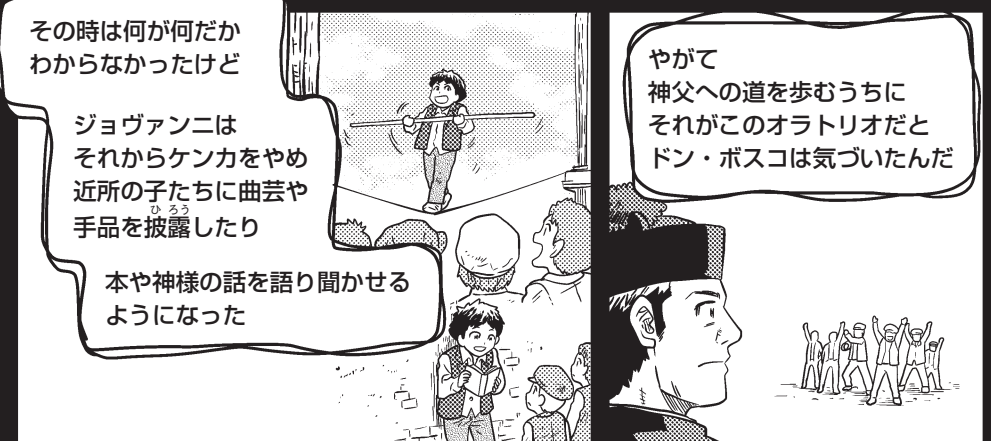
動物たちは
見る見るうちに
おとなしい子羊に変わり

二人の周りを
うれ
嬉しそうに
飛び跳ねた



僕が…
これを…？

あなた方はいったい…



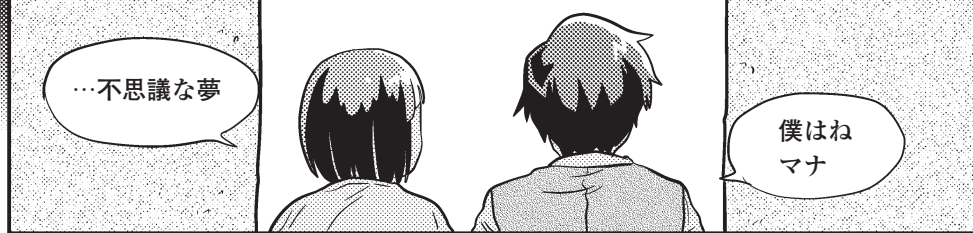
その時は何が何だか
わからなかったけど

ジョヴァンニは
それからケンカをやめ
近所の子たちに曲芸や
手品を披露したり

本や神様の話を語り聞かせる
ようになった

やがて
神父への道を歩むうちに
それがこのオラトリオだと
ドン・ボスコは気づいたんだ





…不思議な夢

僕はね
マナ

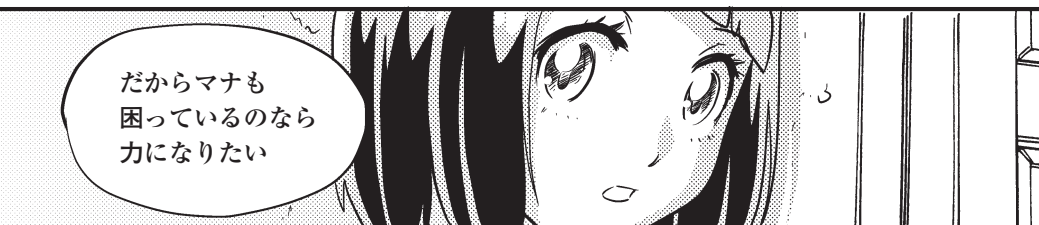


ドン・ボスコのように…

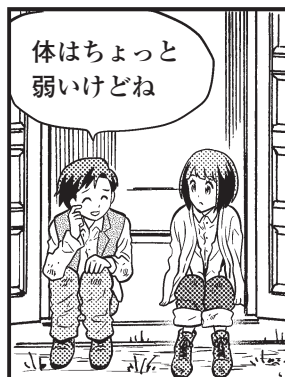
夢の人が言ったように…

優しさと愛をもって
みんなを導いていける
強い人になりたい

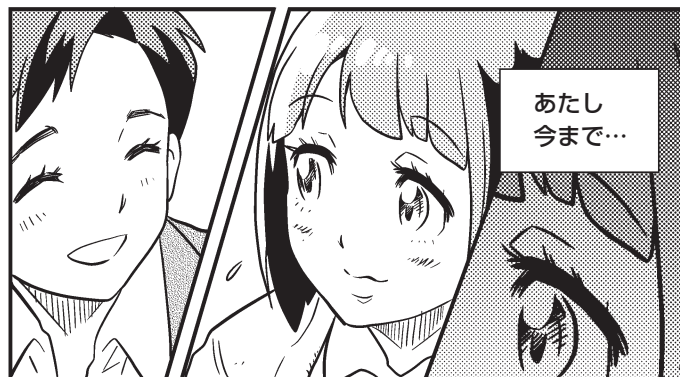
みんなが本当に
幸せになってくれることが
いちばん嬉しいから



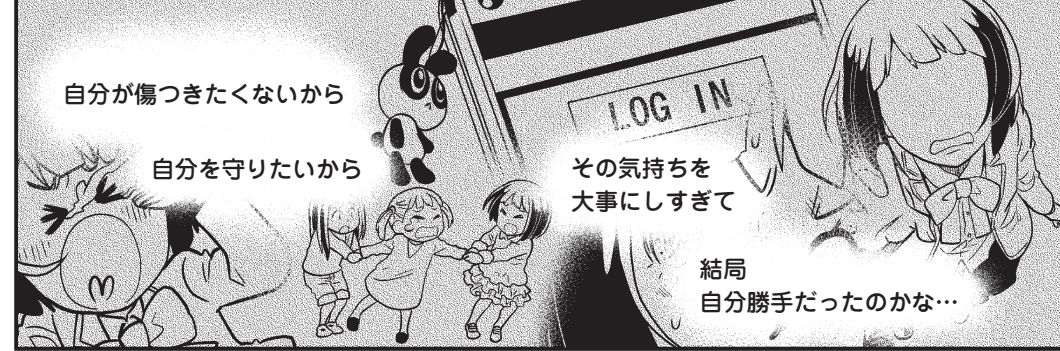
だからマナも
困っているのなら
力になりたい



体はちょっと
弱いけどね



あたし
今まで…



自分が傷つきたくないから

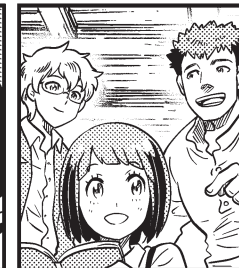
自分を守りたいから

その気持ちを
大事にしすぎて

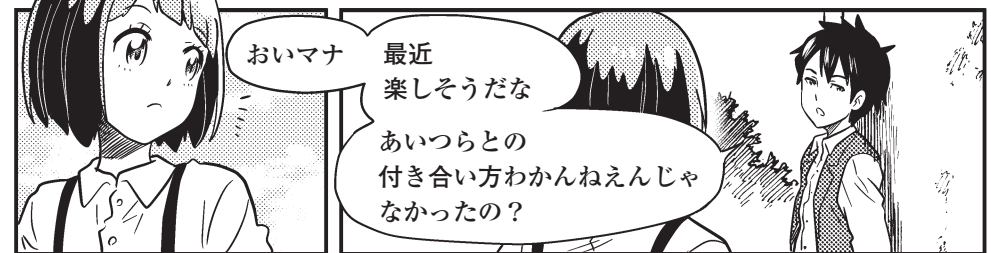
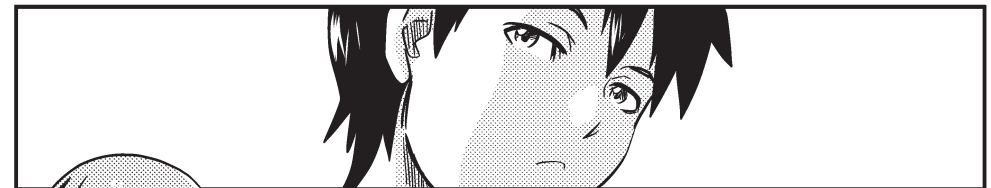
結局
自分勝手だったのかな…



それからの
私は——



以前よりも
考えすぎることなく
みんなと話せるように
なった気がします



おいマナ

最近
楽しそうだな

あいつらとの
付き合い方わかんねえんじや
なかったの？



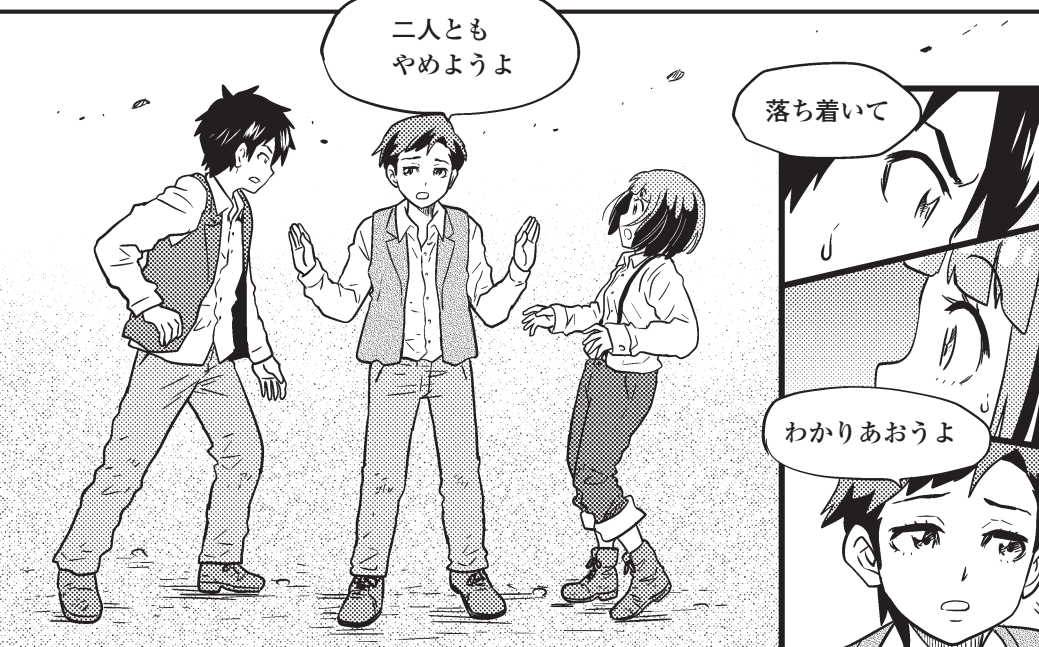
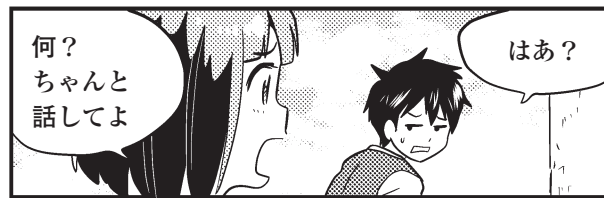
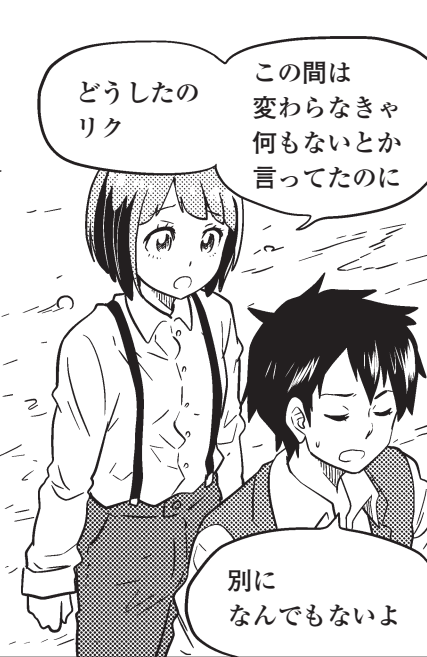
うん…
なんかだんだん
なじんできたみたい

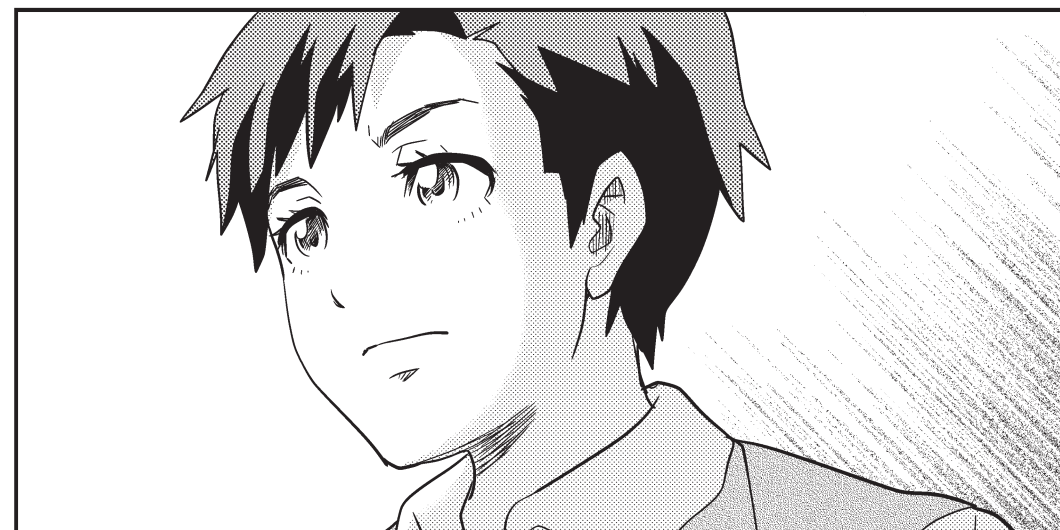
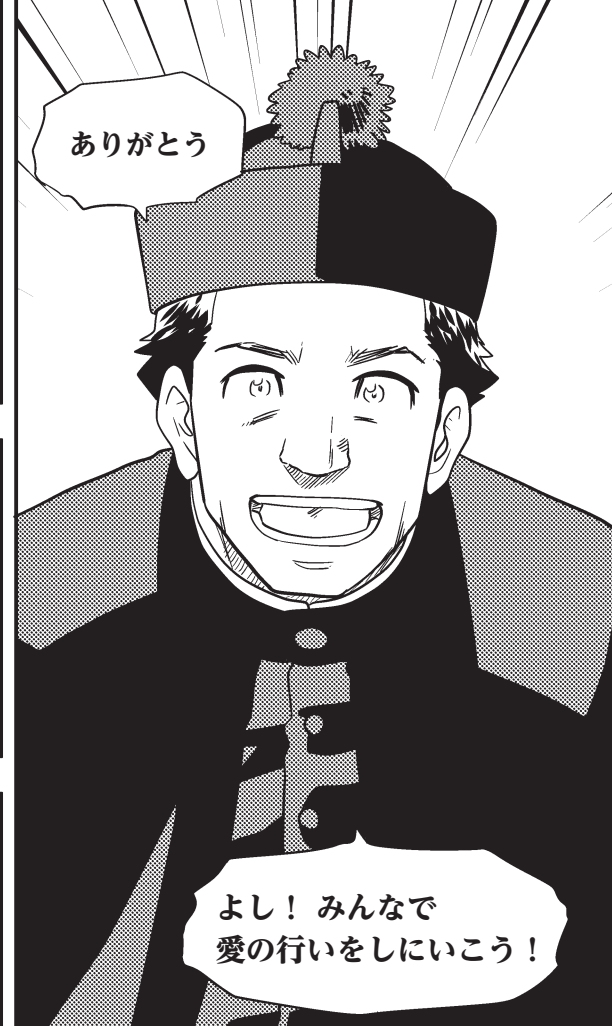
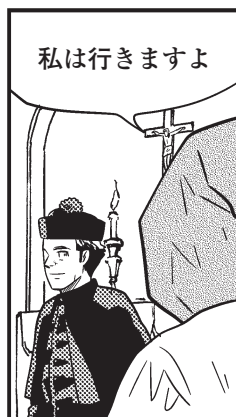
みんな
優しくして
くれるよ



そうか
でもあんまり
仲良くなるなよ

あとで別れとか
めんどくさくなるぞ





不思議な夢だけど、ほんと？



私もよく夢を見るんだけど…ドン・ボスコも夢をよく見たの？



ドン・ボスコは生涯において特別な意味のある夢を100以上見たそうだよ。



すごーい、そんなに！



本当かよ。



本当だよ。夢の話はたくさん記録に残っているんだ。



特別な夢ってなんだろう？ お菓子^{かし}をたくさん食べる夢とか？ あ、別の星に行っちゃう夢とか（笑）



お前とは違うよ！ ドメニコに教えてもらっただろ、「ドン・ボスコの9歳の夢」だよ。



リク、えらいね。そう、これはドン・ボスコが9歳の時に見た不思議な夢。そして、それは彼の人生を導く夢、とされている。



9歳でしょー。小さいのにすごい夢を見たんだね～



ドン・ボスコはあの夢をどう思っていたんだ？



あくまでも夢だから、そのまま鵲^{うの}呑みに信じることはなかったみたいだよ。



だよな。夢だから。



でも、あの夢も他の夢も、見た後は慎重^{しんちょう}に考え分析したうえで「これは特別な意味がある」と思った場合はとても大切にしていたんだ。



だから記録がいっぱいに残っているんだな。



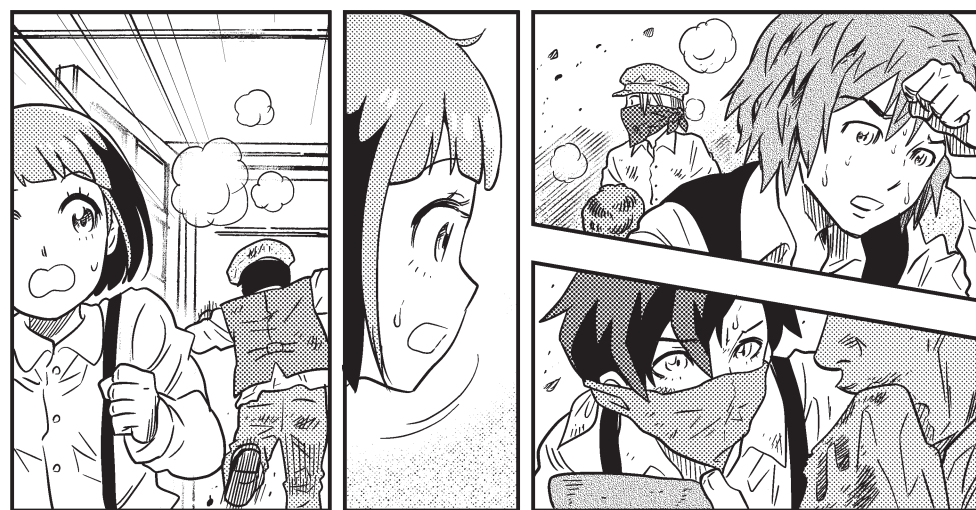
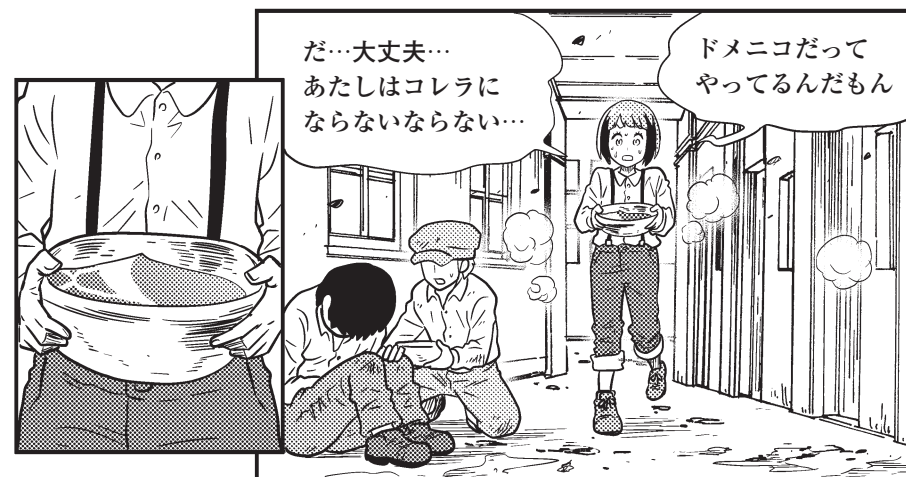
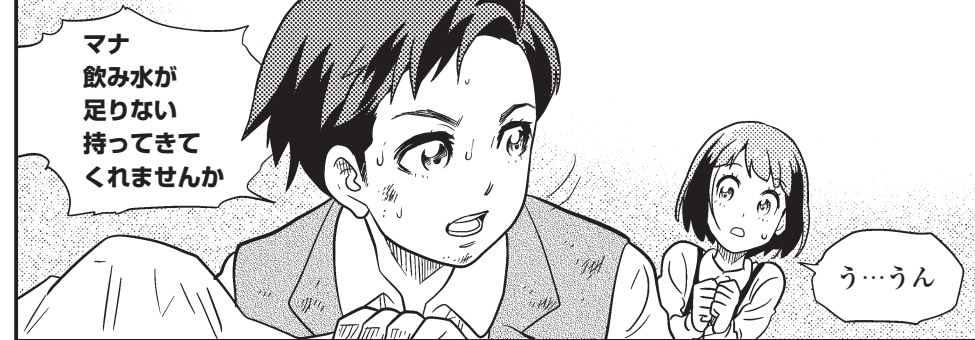
そうだね。ドン・ボスコの夢の話は『完訳ドン・ボスコ伝』でもたくさん紹介されているから読んでみてほしいな。

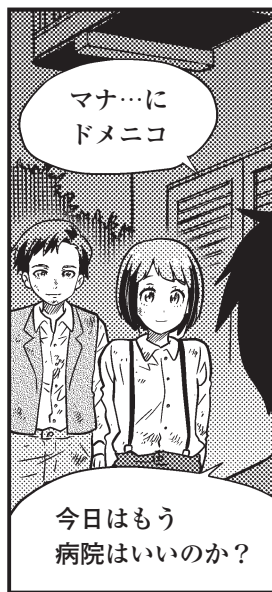
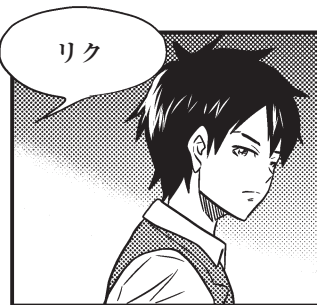
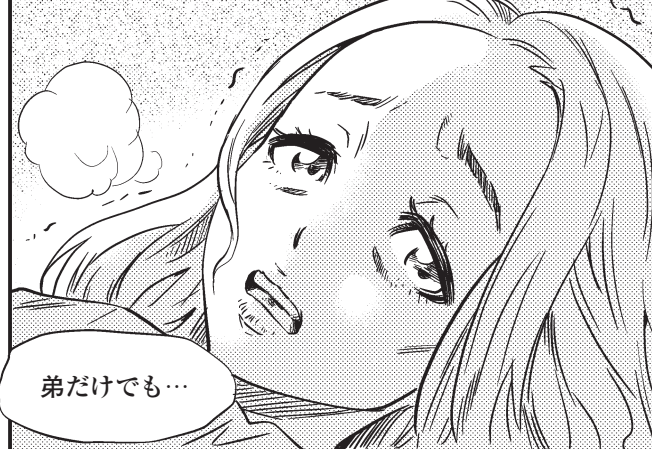
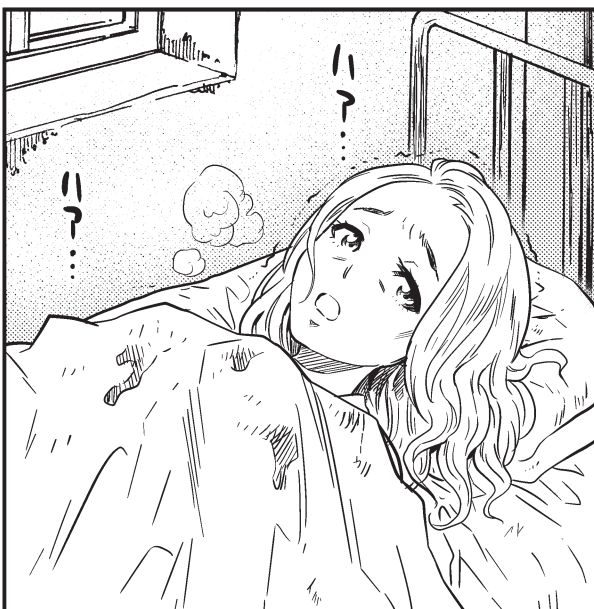
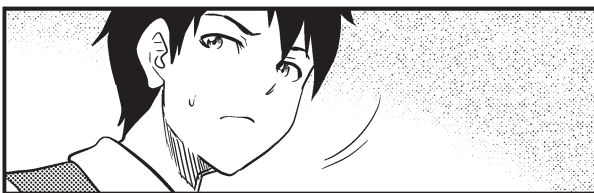
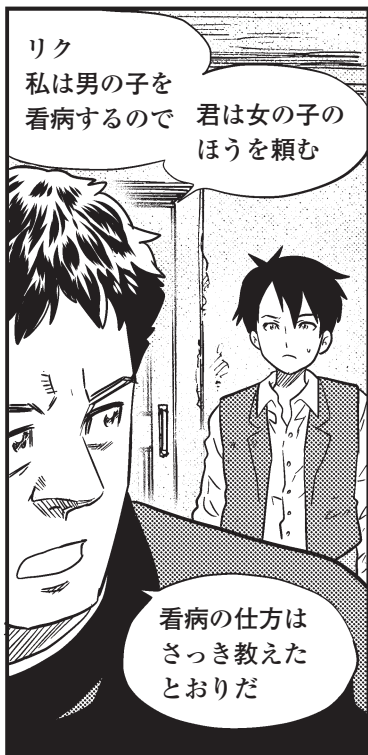
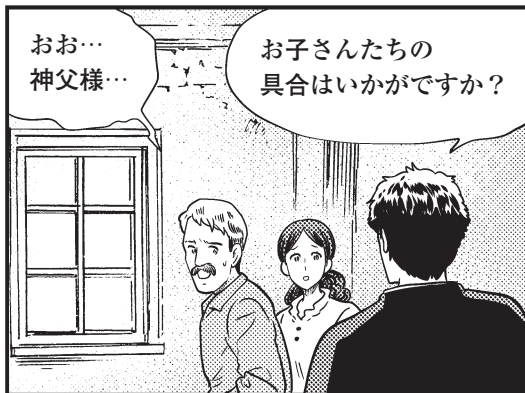


あ、宣伝うまいね（笑）はい。読みま～す

chapter 6

献身





まったく…
コレがうつるかも
しれないってのに…

患者にはほんと
ありがたく思っ
てほしいよな

でも
やるだけ偉いよ

みんながやるからと
言ってもリスクは
あるんだ

逃げないのは
本当にすごいことだよ

お…

…俺だって

人が死にそうだったら
助けるさ…

リク…

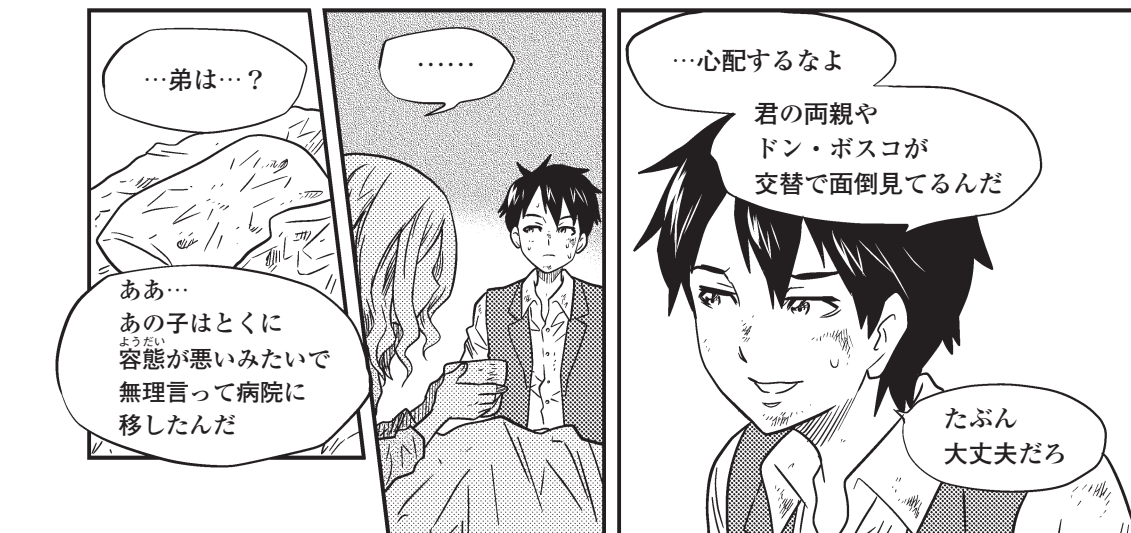
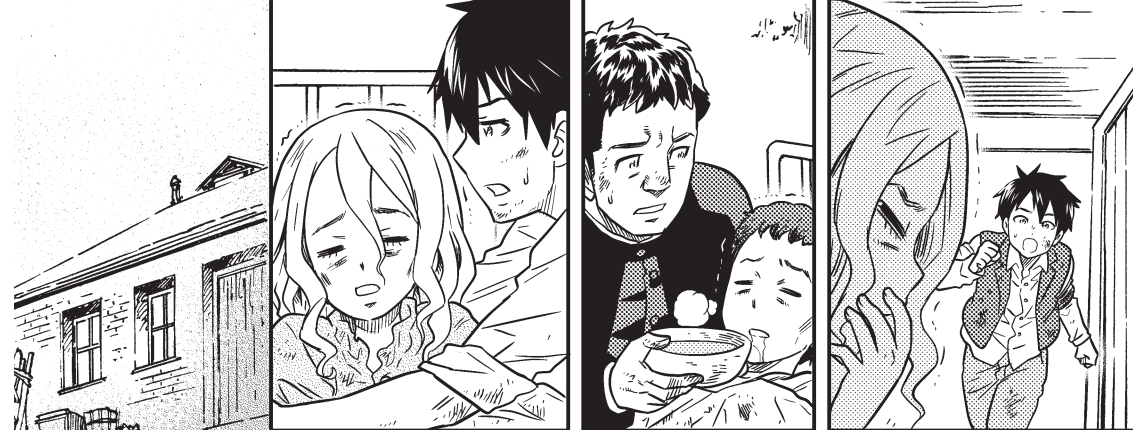
…弟は…？

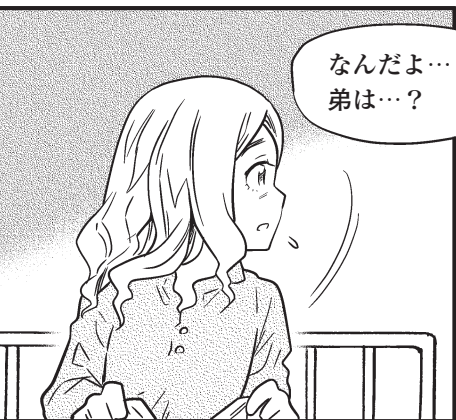
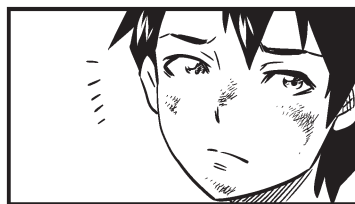
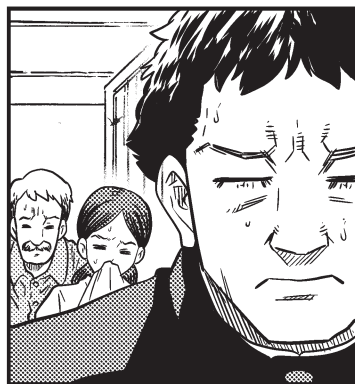
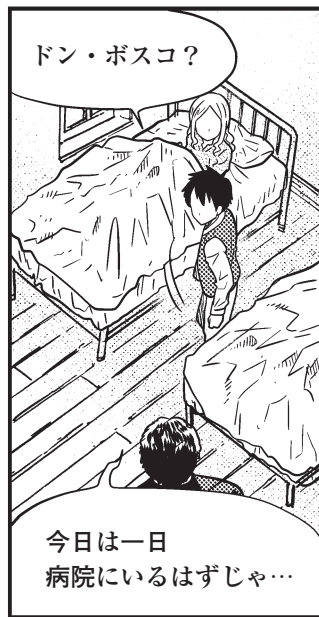
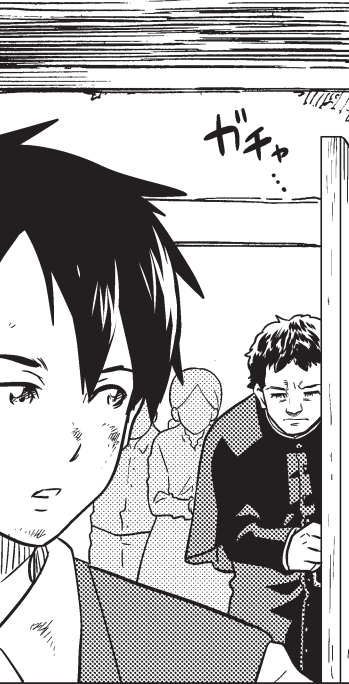
ああ…
あの子とはとくに
容態が悪いみたいで
無理言って病院に
移したんだ

…心配するなよ

君の両親や
ドン・ボスコが
交替で面倒見てるんだ

たぶん
大丈夫だろ

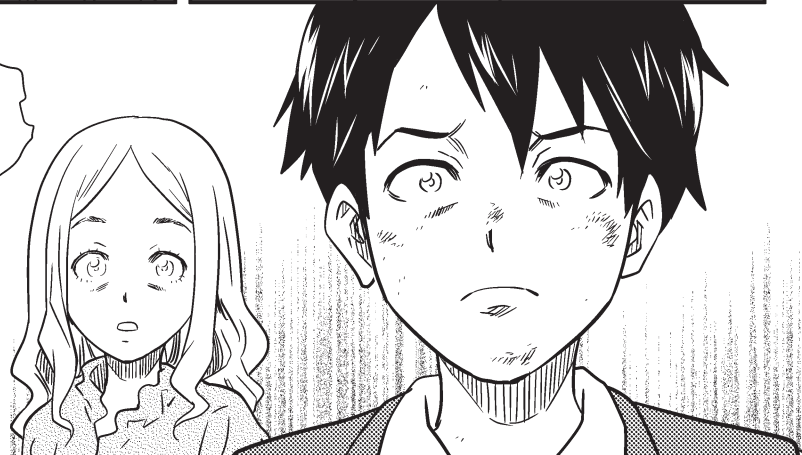




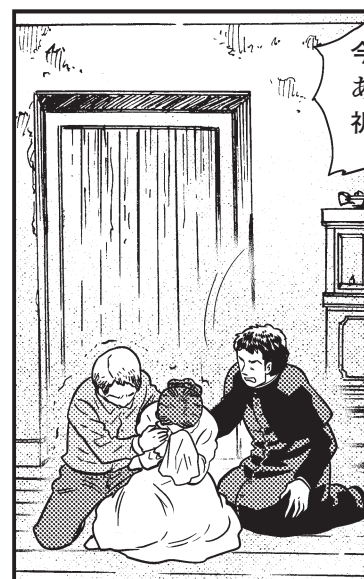
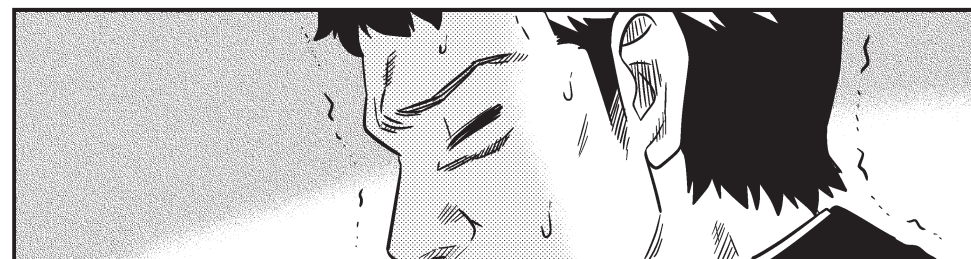
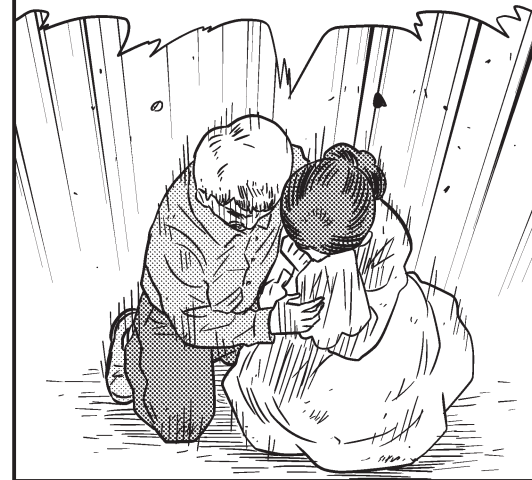
なんだよ…?
弟は…?



コレラの進行は…
あまりにも…早く



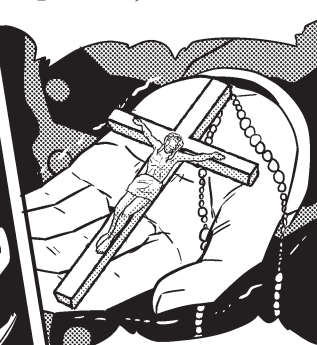
ああああああ!



今は…
あの子のために
祈り続けることです



私たちはとても悔しくて
悲しいですが…



神様は
私たちと共に苦しみを
担ってくださいから…

